

## アプリケーションを作成する

- 11.1 アプリケーションを作成する
- 11.2 アプリケーションを実行する
- 11.3 アプリケーションを設計する
- 11.4 テーブルを設計する
- 11.5 ビューの設計
- 11.6 マクロを利用する

Access 2013で追加された一番の目玉機能は、カスタムアプリケーションを作成する機能です。ファイルを使う従来のデータベースとは違って、カスタムアプリケーションはサーバーにインストールされ、ブラウザを通じてどのPCからでもアクセスできるようになります。

従来は専用のサーバーとプログラミング言語で実現するしかなかった専用Webアプリケーションを、Access 2013を使うと簡単に作成できるようになります。ただし、これを実現するには、Office 365サービスあるいはSharePointサーバーが必要です。



# アプリケーションを作成する

**Keyword** ● SharePoint ● Office 365 ● Web アプリ

Accessアプリケーションは、Webを通じてデータベースにアクセスすることができるアプリケーションです。データベースは、ファイルではなく、専用のサーバーに蓄積されます。

この機能を使うには、SharePointサーバーに接続するか、Office 365のアカウントを持っていないとなりません。ここでは、Office 365のアカウントを使って、AccessのWebアプリケーションを実現する方法を説明します。

## Point アプリケーションの作成と管理

ここでは、Webアプリケーションを作成する方法と、作成したアプリケーションの管理方法を説明します。

1 アプリケーションを作成する

2 アプリケーションを開く

3 アプリケーションを削除する

アプリケーションを作成するには、アカウントを設定したあとで、新規作成画面を使います。

また、Office365の管理画面を使って、アプリケーションの作成や削除を行うことができます。

11  
アプリを作成する

12  
テンプレートの使用

13  
データベース作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

### ▼アプリケーションの新規作成



アプリケーションを作成する

### ▼アプリケーションの管理



アプリケーションを管理する



## 11.1.1 アカウントを設定する



Webアプリケーションを作成するには、まず、Accessにサーバーのアカウントを設定しなくてはなりません。Office 365のアカウントを持っている場合には、そのアカウントを設定します。

本章の操作は、Office 365サービスを使用した場合の例を示します。自分の組織で運用しているSharePointサーバーをお使いの方は、サインインなどの方法が異なることがありますので、詳しくはサーバー管理者にお尋ねください。

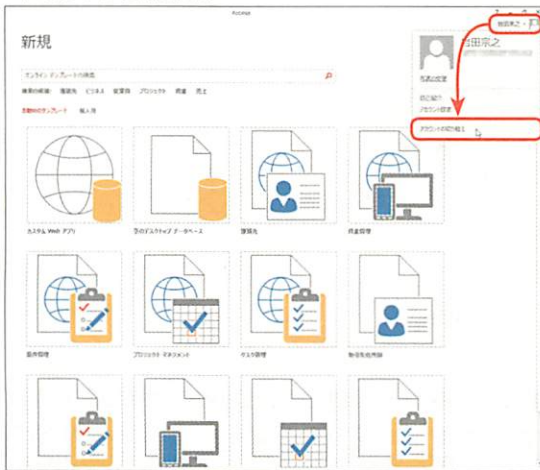
### Process

## アカウントを切り替える



サインインしているアカウントをOffice 365アカウントに切り替えることで、Office 365サーバーに接続することができるようになります。これには、次のように操作します。

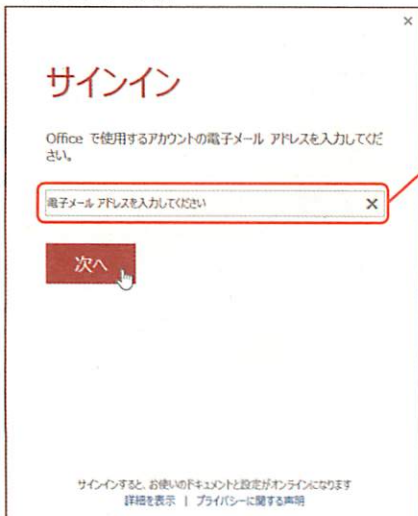
### ▼アカウントの切り替え



① アカウントの切り替えを実行する

① 画面右上のアカウント名をクリックし、[アカウントの切り替え]をクリックする

### ▼アカウントの追加



② アカウントの電子メールアドレスを入力して、次へをクリックします。

② 電子メールアドレスを入力して、[次へ]をクリックする

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.1 アプリケーションを作成する

### ▼パスワードの入力

サインイン

ユーザー ID:  
[Input field]

パスワード:  
[Input field]

サインインしたまま処理を続ける

サインイン(S)

アカウントにアクセスできません?

© 2012 Microsoft Corporation  
プライバシー | 利用規約

③ アカウントのパスワードを入力します。

④ アカウントが切り替わりました。

③ パスワードを入力し、[サインイン]をクリックする

### ▼アカウントが切り替わった



アカウントが切り替わった

岩田宗之

自己紹介

アカウント設定

アカウントの切り替え

### Onepoint

複数のアカウントでサインインしていると、**アカウントの切り替え**を実行したとき、アカウントの選択画面になります。自分がサインインしたいアカウントがリストにある場合は、それをクリックするだけでアカウントを切り替えることができます。リストにないアカウントにサインインしたい場合は、**アカウントの追加**をクリックします。

### ▼アカウント選択画面

アカウント(N)

アカウントの切り替え | サインアウト

現在のアカウント

岩田宗之  
[Profile picture]

その他のアカウント

岩田宗之  
[Profile picture]

アカウントの追加(A)  
クリックすると新しいアカウントを Office に追加します

アカウントのリストが表示される

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## Process

## SharePoint サーバーのアカウントを追加する



アカウントを切り替えるのではなく、自分のMicrosoft アカウントに、Office 365 サーバーのサービスを追加することができます。これによって、アカウントを切り替えることなく、Office 365 サーバーを使えるようになります。

## ▼アカウント画面の選択



① ファイルタブで、アカウントを選択します。

① [アカウント]を選択する

アカウント

## ▼ユーザー情報画面

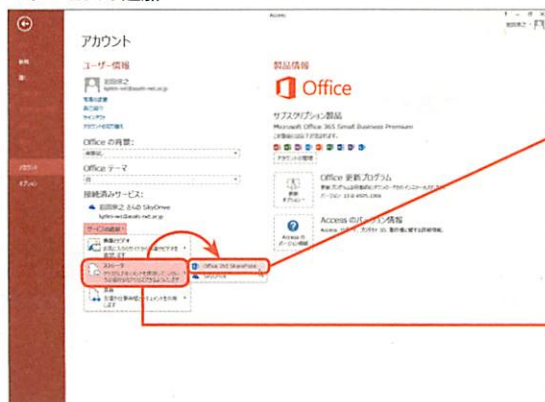


② ユーザー情報画面で、サービスの追加を実行します。

② [サービスの追加]をクリックする

サービスの追加

## ▼サービスの追加



③ Office 365 SharePoint サービスを追加します。

③ [ストレージ]を選択し、その中の[Office 365 SharePoint]をクリックする

ストレージ  
クラウドにドキュメントを保存して、いろいろな場所からアクセスできるようにします

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.1 アプリケーションを作成する

### ▼アカウントの追加

4 アカウントの電子メールアドレスを入力します。

4 電子メールアドレスを入力し、[次へ]をクリックする

### ▼パスワードの入力

5 アカウントのパスワードを入力します。

5 パスワードを入力し、[次へ]をクリックする

### ▼サービスの追加

6 接続済みサービスに追加されました。

サービスが追加された

個人 weatam@weatam.onmicrosoft.com 削除



## 11.1.2 アプリケーションを作成する



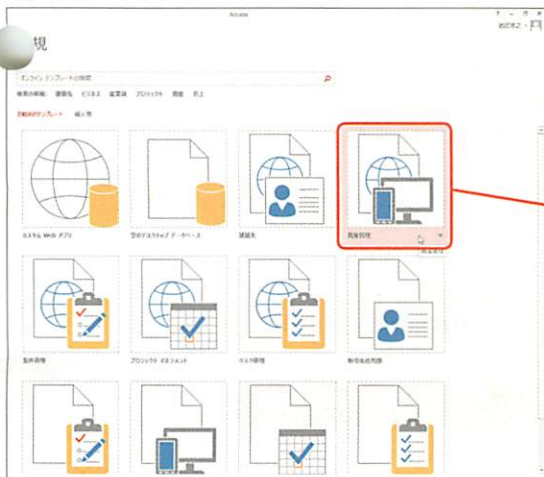
アカウントの設定が完了していれば、新規作成画面でアプリケーションを作成することができます。通常のデータベースと同様に、テンプレートを選ぶか、空の状態を作成します。また、Accessからではなく、Office 365の画面から新規作成することもできます。

### Process

## Accessから新規作成する

新規作成画面で、地球儀が描かれているテンプレートを選ぶと、Webアプリケーションを作成することができます。

### ▼テンプレートを選ぶ



- 1 中央に表示されたテンプレートの中から、これから作りたいデータベースのテンプレートを選びます。
- 2 アプリ名と場所を指定します。
- 3 データベースが作成されます。

### 1 テンプレートを選択する

### OnePoint

カスタムWebアプリを選択すると、空のWebアプリケーションを作成することができます。

### ▼アプリ名と場所の指定



### 2 アプリ名と場所を指定して、[作成]をクリックする

### ▼データベースが作成される



データベースが作成された

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

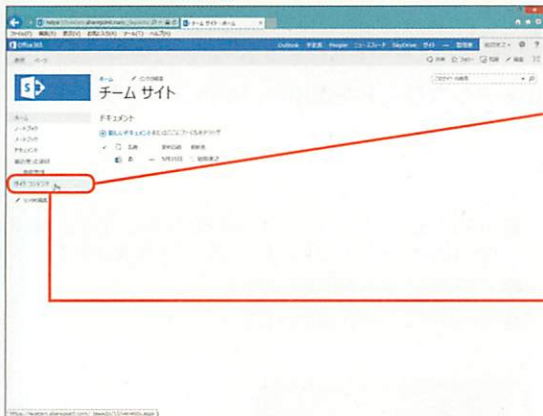
索引  
Index

## Process

## サーバー管理画面から新規作成する

Accessからではなく、Office 365 サーバーの管理画面から新規作成することもできます。この操作は、ブラウザ上でOffice 365サーバーの画面から行います。アプリケーションを追加したいサイトの管理画面を開いて、次のように操作します。

## ▼サイトコンテンツを選択

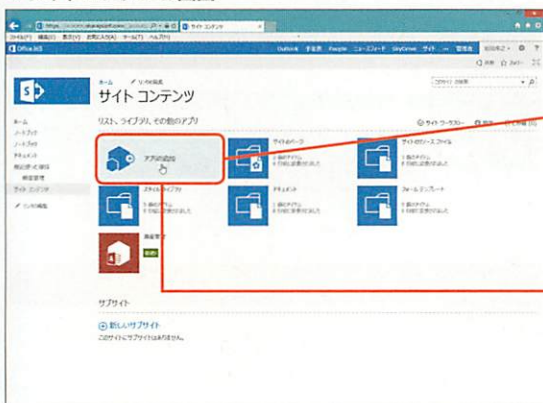


1 サイトコンテンツを表示します。

1 [サイトコンテンツ]をクリックする

サイトコンテンツ

## ▼サイトコンテンツ画面



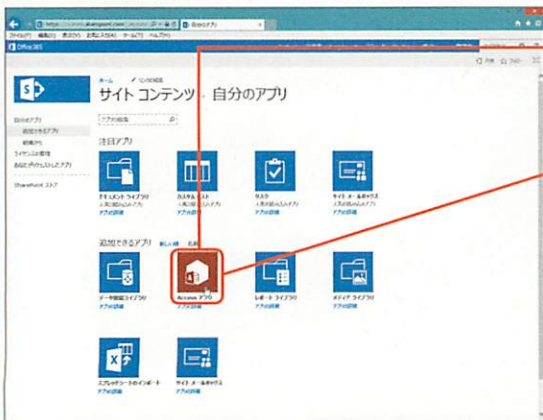
2 アプリの追加を選択します。

2 [アプリの追加]を選択する

アプリの追加

3 Access アプリを選択します。

## ▼アプリの選択画面



3 [Access アプリ]を選択する



## Onepoint

追加できるアプリのリストは、お使いのサービスの状況によって変わりますので、**Access アプリ**が最初の画面には出てこないかもしれません。そのときは、画面下の右矢印をクリックして、リストを進めます。



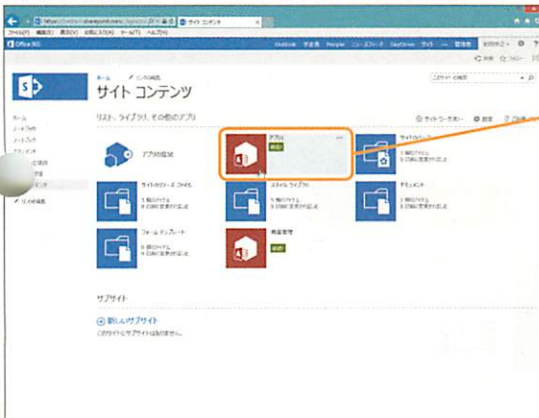
## ▼アプリの名前指定



4 アプリの名前を指定します。

4 名前を指定し、[作成]をクリックする


## ▼アプリの追加



5 しばらくすると、アプリが追加されます。

アプリが追加された

## Onepoint

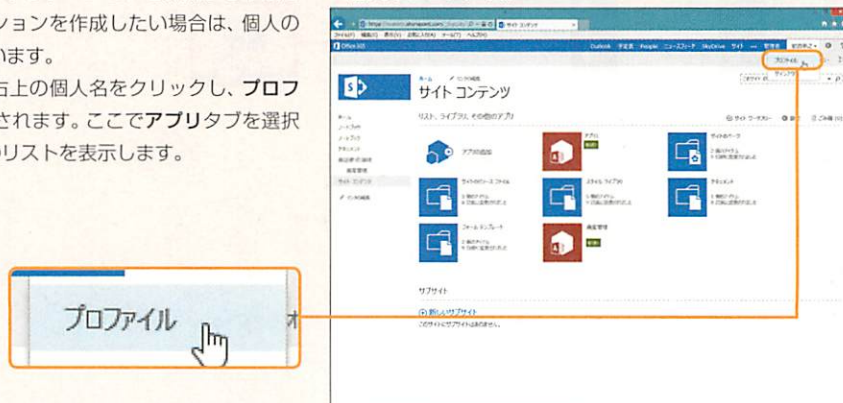
 この方法で追加されたアプリは、中身が何もない状態です。テンプレートを適用するには、Accessから新規作成しなくてはなりません。

## Memo 個人用アプリの管理画面

この手順は、サイトのアプリケーションを作成する手順です。個人用のアプリケーションを作成したい場合は、個人のプロフィール画面から行います。

プロフィール画面は、右上の個人名をクリックし、プロフィールを選択すると表示されます。ここでアプリタブを選択して、アプリケーションのリストを表示します。

## ▼個人のプロフィール

11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## 11.1.3 アプリケーションを削除する



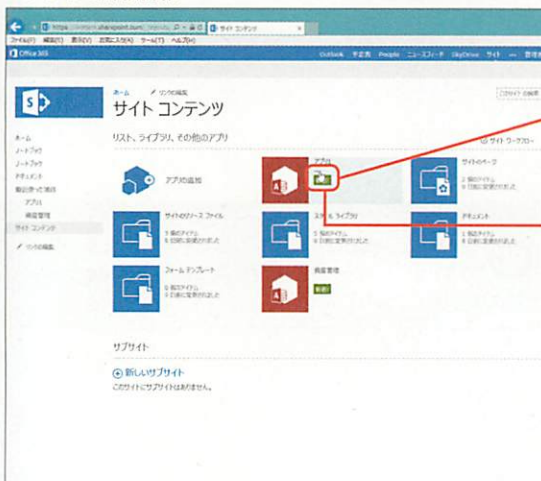
いったん作成したアプリケーションの削除は、Accessからではできません。Office 365の管理画面から行います。

### Process

## アプリケーションを削除する

アプリケーションの削除は、Office 365の管理画面から行います。アプリのリストの中からAccessのアプリを選んで、削除を実行します。

#### ▼アプリの詳細情報



1 削除したいアプリの…ボタンをクリックします。

1 [...]をクリックする

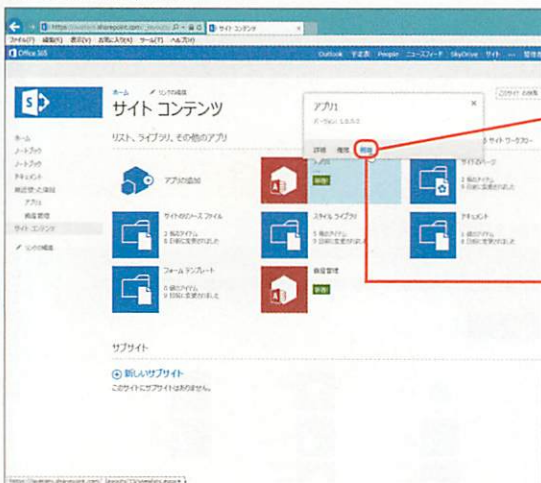


#### OnePoint



…は、アプリの上にマウスカーソルを置くと表示されます。

#### ▼アプリの詳細メニュー



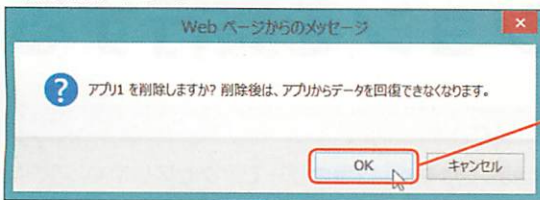
2 メニューの中から削除を選択します。

2 [削除]をクリックする





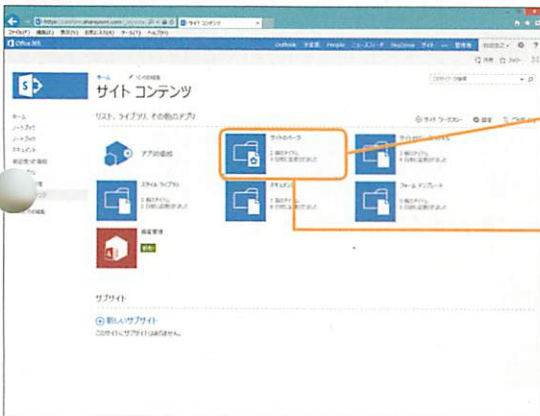
## ▼削除確認メッセージ



③ 確認メッセージが表示されます。

③ [OK] をクリックする

## ▼削除完了



④ アプリが削除されました。

アプリが削除された



## Onepoint



個人用アプリケーションを削除する場合は、各ユーザーのプロファイル画面にあるアプリアブから行います。



## Memo サイトと個人用アプリ

Office 365では、複数のサイトを作成することができ、アプリケーションはサイトごとに複数作成することができます。また、他の人と共有しない、自分だけのアプリケーションを追加することもできます。

手順②で場所を選択するとき、個人用アプリという場所が個人専用の場所で、それ以外はサイトです。どこにアプリケーションを作成するかによって、どの管理画面からアプリケーションを管理するかが異なります。

11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index



# アプリケーションを実行する

**Keyword** ● Webアプリ ● テーブル ● ビュー ● リストビュー ● データシート

作成したアプリケーションは、Accessではなく、ブラウザでアクセスします。このため、AccessがインストールされていないPCでも実行できますし、タブレット端末やスマートフォンなどからも実行できるようになります。

Webアプリケーションでは、Accessとは少し違ったユーザーインターフェイスを使って、データを入力したり閲覧したりします。

## Point アプリケーションの実行

ここでは、作成したアプリケーションをブラウザ経由で実行する方法を説明します。

### アプリケーションを開始する

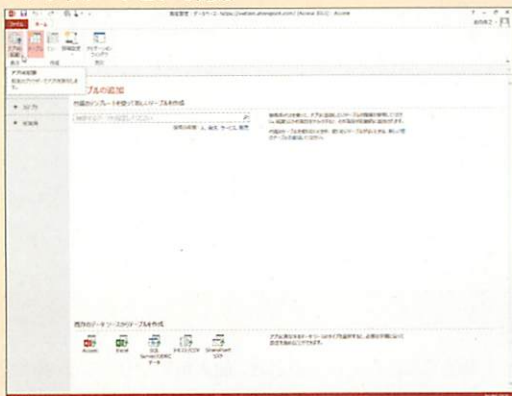
### アプリケーションの画面構成

### データを入力する

アプリケーションは、通常のWebページと同様に、ブラウザ経由で実行します。データの入力や閲覧、編集などがすべてブラウザから行えます。

アプリケーションは、データのもととなるテーブルと、そのテーブルの内容を表示するビューからなります。まずは閲覧・編集したいテーブルを選び、実行したい作業に適したビューを選んで、データの閲覧や入力を行います。

▼アプリケーションの開始



アプリケーション開始画面

▼アプリケーション画面



アプリケーション画面



## 11.2.1 アプリケーションを開始する



アプリケーションは通常のWebページと同様に、ブラウザにURLを入力したり、リンクやブックマークからたどったりして開くことができます。しかし、アプリケーションを最初に開くためには、URLを調べなくてはなりません。

まずは、AccessやOffice 365の管理画面から、アプリケーションを開きます。いったんアプリケーションが開いたら、そのURLをコピーしたり、ブックマークに入れたりして、次からは簡単にアクセスできるようになります。

### Onepoint



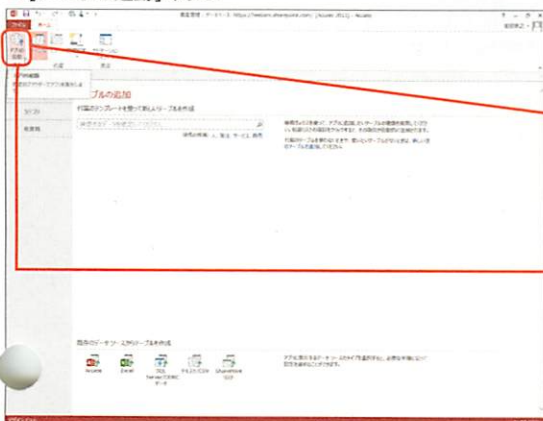
「11.1.2 アプリケーションを作成する」で説明した方法で、資産管理アプリケーションを選んで新規アプリケーションを作成してから、以下のアプリケーション操作を実際に試してみてください。

## Process

### Access で開始する

Accessでアプリケーションを開いている際には、**アプリの起動**ボタンでアプリケーションを起動できます。

#### ▼ [アプリの起動] ボタン



① ホームタブのアプリの起動を実行します。

① [アプリの起動] ボタンをクリックする



#### ▼ アプリケーションの起動



② ブラウザーが起動し、アプリケーションが開きます。

アプリケーションが開く

### Onepoint



アカウントの状況によっては、サインイン画面が表示されることもあります。そこでアカウントのメールアドレスとパスワードを入力すれば、アプリケーションが開きます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

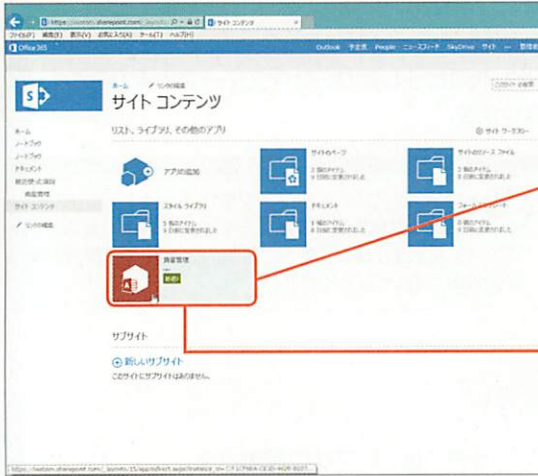
索引  
Index

Process

SharePointで開始する

Office 365のサイトコンテンツ画面から、アプリケーションを起動することもできます。

▼サイトコンテンツ画面

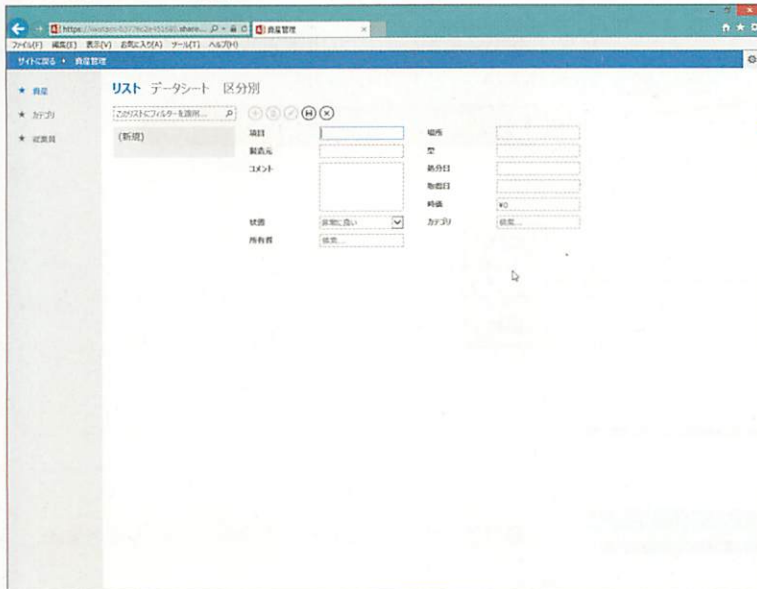


- ① サイトコンテンツのリストから、起動したいアプリケーションを選択します。
- ② アプリケーションが開きます。

① [サイトコンテンツ]タブで、起動したいアプリケーションを選択する



▼アプリケーションの起動



アプリケーションが開く

**OnePoint**

個人用アプリケーションを削除する場合は、各ユーザーのプロファイル画面にある**アプリ**タブから行います。



## 11.2.2 アプリケーションの画面構成

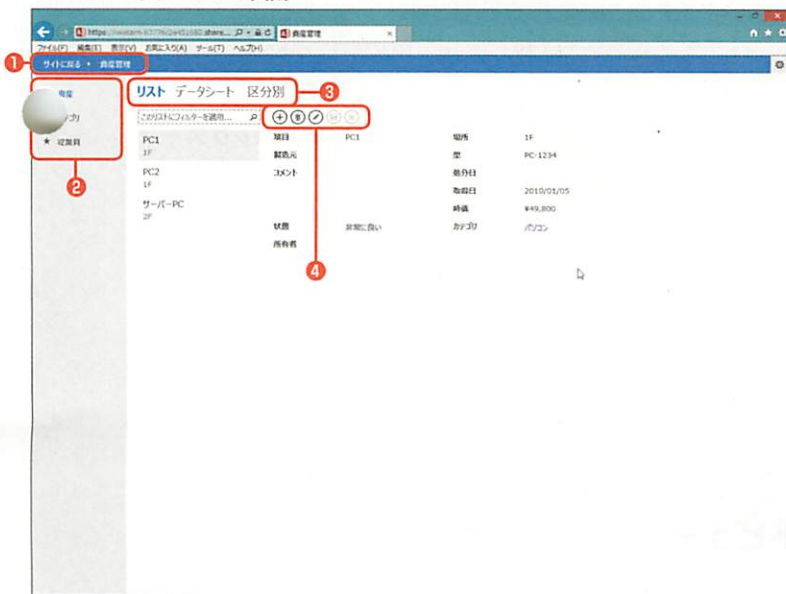


Webアプリケーションは、Accessの通常画面とは異なった画面構成になっています。Webアプリケーションの画面構成について見ていきましょう。

### 全体画面

Webアプリケーションの画面は、以下のような構成になっています。

#### ▼ Webアプリケーション画面



#### ① パンくずリスト

現在表示中のアプリケーションが、サイト内のどの階層にあるかを表します。

#### ② テーブルリスト

データベース中にあるテーブルのリストです。

#### ③ ビューセレクター

1つのテーブルに対して、表示方法が異なる複数のビューがあります。ビューセレクターは、表示させたいビューを選択するためのものです。

#### ④ 操作バー

操作バーには、新規入力や削除、編集など、各種の操作をするためのボタンが並んでいます。

テーブルリストで対象のテーブルを選択し、ビューセレクターでビューを選びます。そして、表示されたビューに対して、操作バーを使って各種操作を行います。

次に、それぞれのビューについて見ていきましょう。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

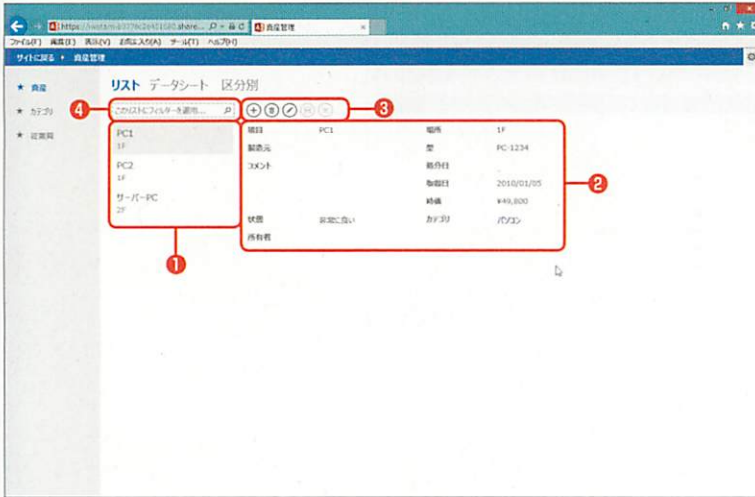
## リストビュー



リストビューは、テーブルの各レコードを表示させるためのものです。左側にレコードがリスト表示され、右側には選んだリストの詳細情報が表示されます。操作バーを使って、レコードの新規追加や編集、削除などができます。

レコードが多い場合、左側のリストがとて多くなって、目的のレコードを探せなくなってしまいます。その場合は、検索ボックスを使って、表示されるレコードを制限します。

### ▼リストビュー



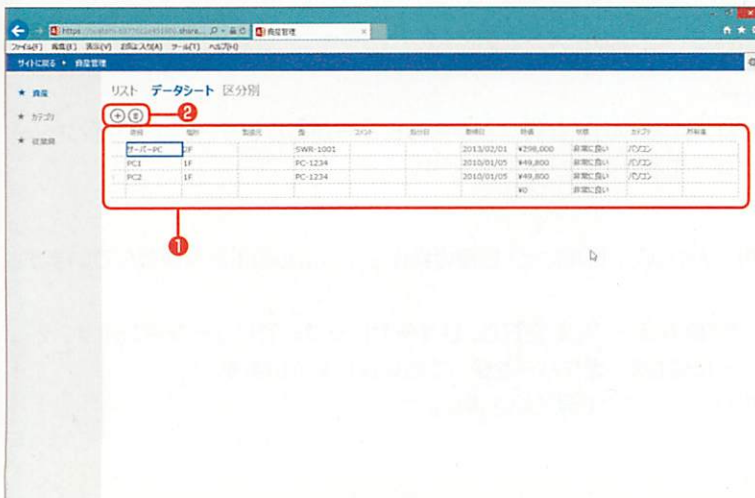
- ① レコードリスト
- ② 詳細情報
- ③ 操作バー
- ④ 検索ボックス

## データシートビュー



データシートビューでは、レコードを表形式で編集できます。表形式のため、詳細な情報をすべて表示しようとするとう列が多くなりすぎて使いにくくなってしまいますが、大量のレコードを編集するには使いやすい形態です。

### ▼データシートビュー



- ① データシート
- ② 操作バー

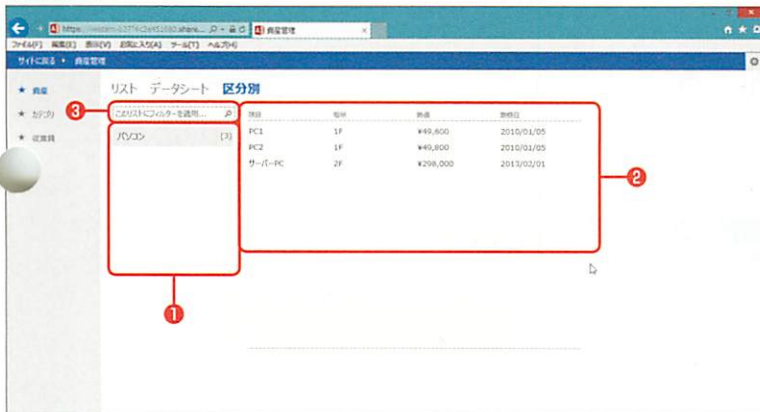


## 概要ビュー



概要ビューは、レコードをグループ分けし、1つのグループの中でのレコードを表示させるビューです。例えば、従業員の情報を部門ごとにグループ分けし、それぞれの部門での従業員リストを表示させることができます。このビューでは、それぞれのレコードの詳細な情報は表示されませんが、リストの各レコードをクリックすることで、詳細な情報がポップアップ表示されます。

### ▼概要ビュー



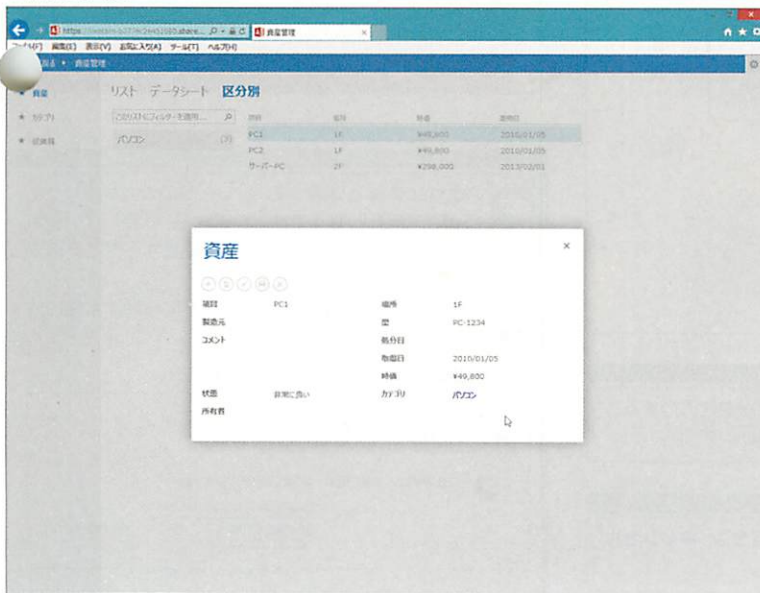
- ① グループ
- ② リスト
- ③ グループのフィルター

## ポップアップ



ポップアップは、1レコードぶんの詳細情報を表示する画面です。リストの各項目をクリックしたときに表示されます。ポップアップの表示中は他の作業はできないので、1つのレコードに対する操作が終了することにポップアップを閉じなくてはなりません。

### ▼ポップアップ



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.2.3 データを入力する



アプリケーションでは、様々なビューでデータを追加、編集、削除することが可能です。データの入力方法はアプリケーションの設計画面で自由にカスタマイズすることができますので、ここでは標準的な方法のみ記載します。

### Onepoint



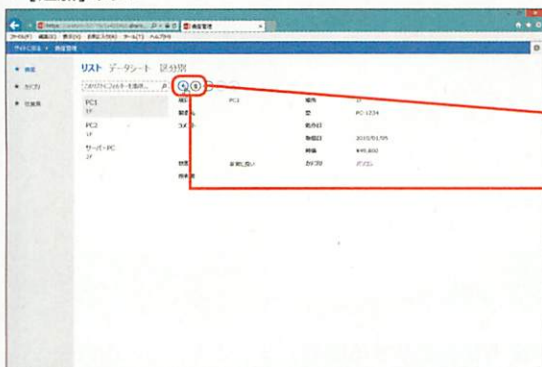
多くのデータを追加、編集、削除する場合は、データシートビューで行うのが一番便利です。

### Process

## データを追加する

データを追加するには、各ビューの操作バーにある追加ボタンをクリックします。

### ▼ [追加] ボタン



① 追加ボタンをクリックします。

1 [追加] ボタンをクリックする

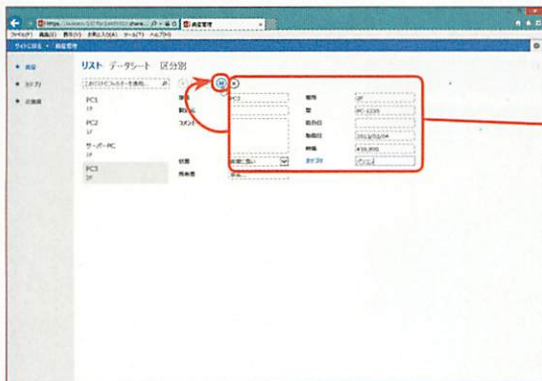


### Onepoint



追加ボタンが灰色になっていてクリックできない場合は、そのビューではデータの追加ができないということです。

### ▼ 新規入力画面



② 新規入力画面になります。各項目を入力し、保存ボタンをクリックしてレコードを保存します。

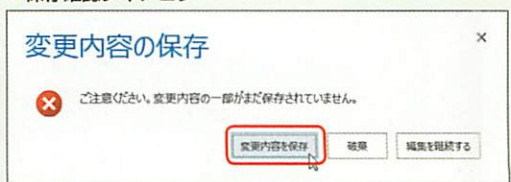
2 新規データを入力し、[保存] ボタンをクリックする

### Onepoint



Access 本体とは違って、レコードの入力が終わったら保存を実行しなくてはなりません。保存しないままビューを移動しようとする、保存を確認するダイアログボックスが表示されます。データシートビューでは、別のレコードに移動する際には自動的に保存を実行してくれます。

### ▼ 保存確認ダイアログ



### Onepoint



データシートでは、一番下の行にデータを入力することで、新規レコードが追加されます。

### Onepoint



入力内容を破棄して元に戻したい場合は、キャンセルボタンをクリックします。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

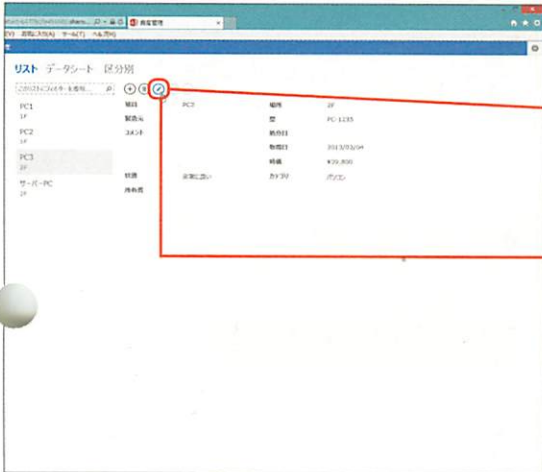


## Process

## データを編集する

既存のレコードを編集するには、編集ボタンをクリックします。

## ▼ [編集] ボタン

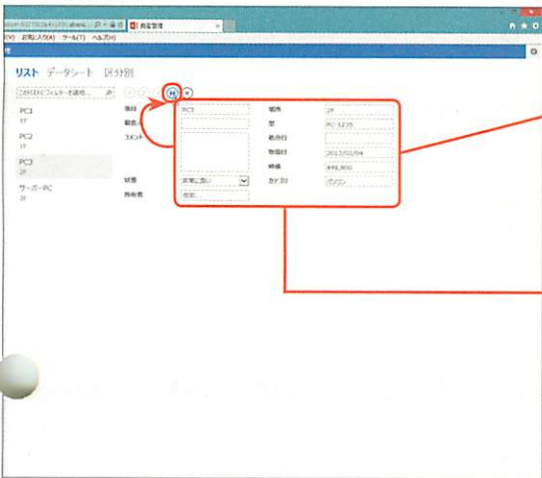


① 編集ボタンをクリックします。

① [編集]ボタンをクリックする



## ▼ 内容の変更



② 内容を変更して、保存します。

② 内容を変更し、[保存]ボタンをクリックする

PC3	場所	2F
	型	PC-1235
	処分日	
	取得日	2013/02/04
	時価	¥49,800
非常に良い	カテゴリ	パソコン
検索...		

## Onepoint



データシートビューでは、変更したいセルをクリックするだけで、直接内容を変更することができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

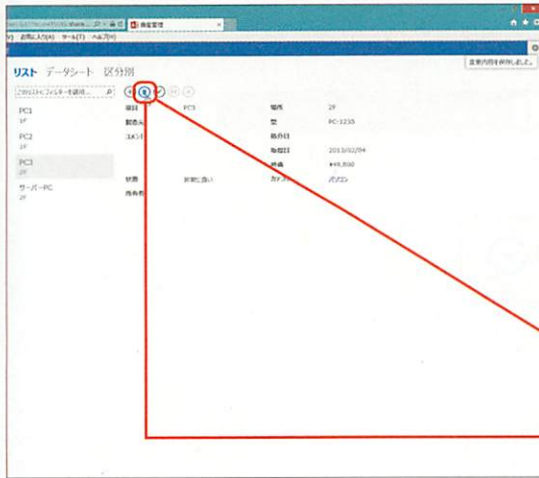
索引  
Index

## Process

## データを削除する

レコードを削除するには、削除ボタンを使います。

## ▼ [削除] ボタン



## Onepoint

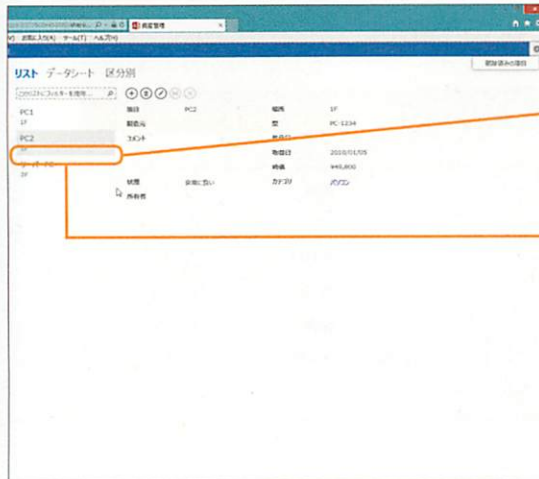
データシートビューでは、**[Shift]** または **[Ctrl]** キーを押しながらレコードをクリックすることで複数選択が可能です。レコードを複数選択して削除ボタンをクリックすることで、複数のレコードを一度に削除することができます。

① 削除したいレコードを選択し、削除ボタンをクリックします。\*

① [削除] ボタンをクリックする



## ▼レコードの削除



② レコードが削除されました。

レコードが削除された

1F

サーバー-PC

## Onepoint

ビューによっては、削除の確認ダイアログが表示されることがあります。この場合は、はいをクリックします。



## 11.2.4 特殊な入力フィールド



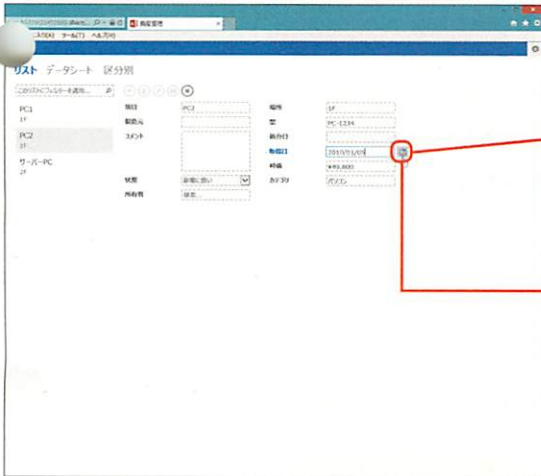
アプリケーションで各種情報を入力する際、テキストや日付、数値などはそのまま入力するのですが、特殊な入力操作が必要なフィールドがいくつかあります。ここでは、そういった入力フィールドについて説明します。

### Process

## 日付を入力する

日付の入力フィールドでは、テキストボックスに直接日付を入力するだけでなく、カレンダーを表示させてそこから日付を選ぶこともできます。

### ▼ [日付の選択] ボタン

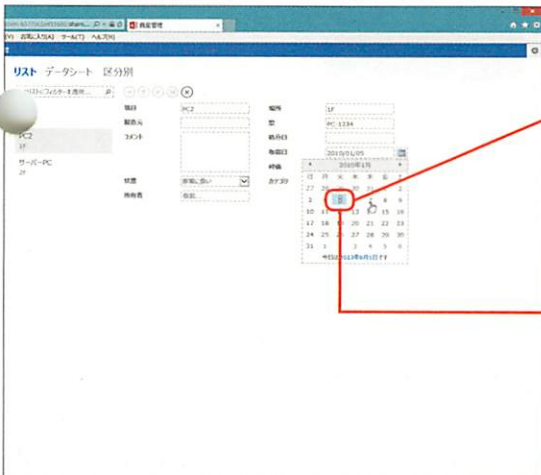


① 日付の選択ボタンをクリックして、カレンダーを表示させます。

① [日付の選択] ボタンをクリックする



### ▼ カレンダー



② カレンダーから日付を選択します。

② 日付を選択する



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## Process

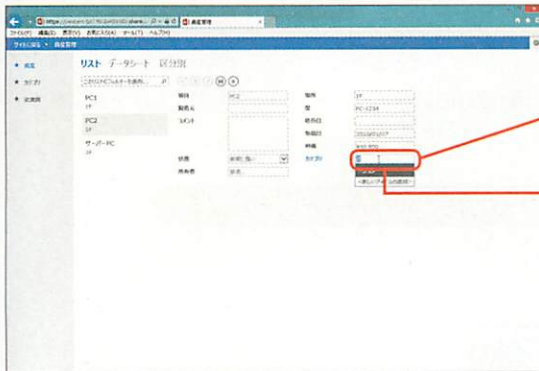
## オートコンプリート入力をする



オートコンプリートテキストボックスは、関連する他のレコードを指定するためのテキストボックスです。通常の Access フォームにおけるコンボボックスに似たはたらきをします。

コンボボックスでは最初から選択肢がリストアップされるのに対して、オートコンプリートテキストボックスでは、名前の一部を入力すると、関連するテーブルからレコードが検索され、候補がリストアップされます。

## ▼名前の一部を入力



① 入力したいレコードの名前的一部分を入力します。

1 名前的一部分を入力する

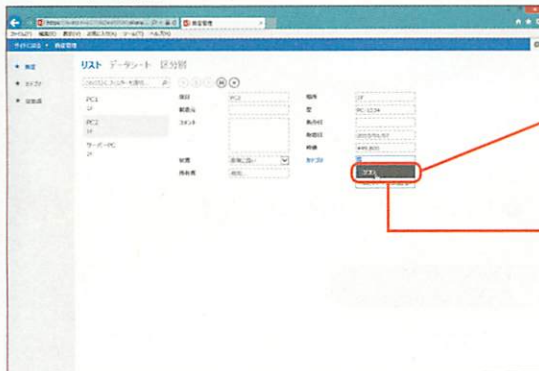


## Onepoint



名前を先頭から入力しなくてはならないわけではありません。一部を入力すれば、それを途中に含むレコードもリストアップしてくれます。

## ▼レコードの選択

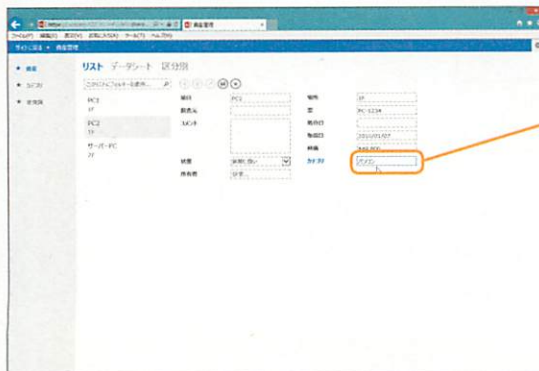


② 候補の中から、指定したいレコードを選択します。

2 レコードを選択する



## ▼レコード指定完了



③ レコードが指定されました。

レコードが指定された

## Onepoint



コンボボックスでは、関連するテーブルに多量のレコードがある場合、リストがとても長くなってしまって使いにくくなってしまいます。このため、多量にあるレコードの中の1つを指定する場合には、オートコンプリート入力の方が便利です。



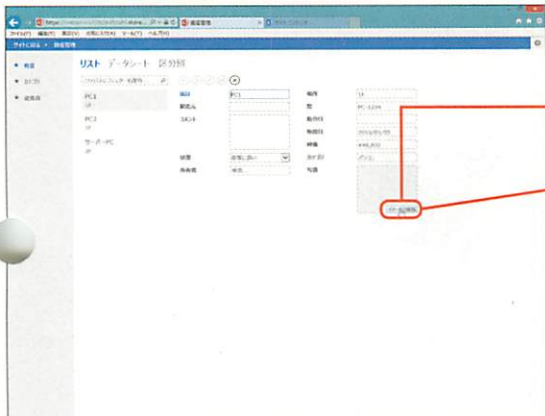
## Process

## 画像を入力する



アプリケーションには、データの一部として画像を貼り付けることもできます。レコードごとに、顔写真や製品画像などを指定することができます。レコード編集画面で、以下の操作を行ってください。

## ▼イメージコントロール



① イメージの追加ボタンをクリックします。

① [イメージの追加]をクリックする

イメージの追加

## Onepoint



これまで例にしてきた資産管理アプリケーションでは、画像を入力する項目がありません。そのため、特別に画像入力コントロールを追加して、例を示しています。コントロールの追加方法は、11.5「ビューの設計」を参照してください。

## ▼画像のアップロード



② 画像ファイルをアップロードします。

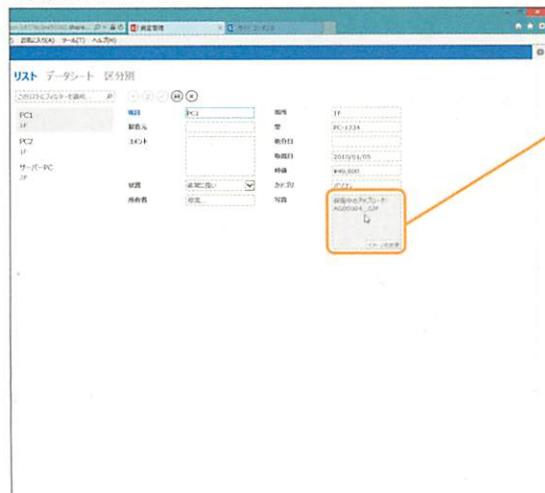
② 画像ファイルを指定し、[OK]をクリックする

## Onepoint



画像データは、ローカルのPCからアクセスできるファイルでなくてはなりません。画像ファイルのファイル名を指定します。

## 画像が入力された



③ 画像が入力されました。

画像が入力された

## Onepoint



レコードの編集では、「保留中のアップロード」が表示されます。レコードを保存すると、アップロードが実行され、実際の画像が表示されるようになります。

## Onepoint



画像が入力されると、イメージの追加ボタンがイメージの変更ボタンに変わります。イメージの変更ボタンをクリックして同じ操作を繰り返すと、指定されている画像を変更することができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

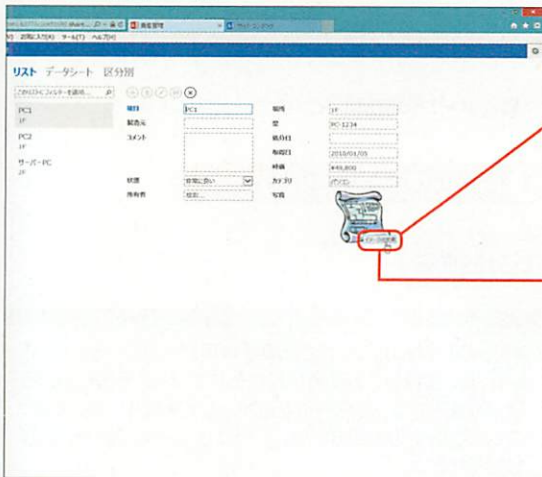
索引  
Index

## Process

## 画像を削除する

レコードに指定してある画像を削除するには、次のようにします。

## ▼イメージコントロール

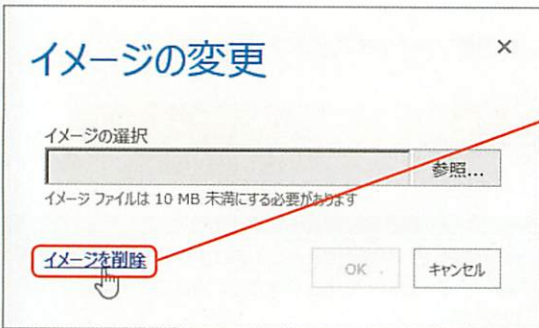


① イメージの変更ボタンをクリックします。

① [イメージの変更]をクリックする



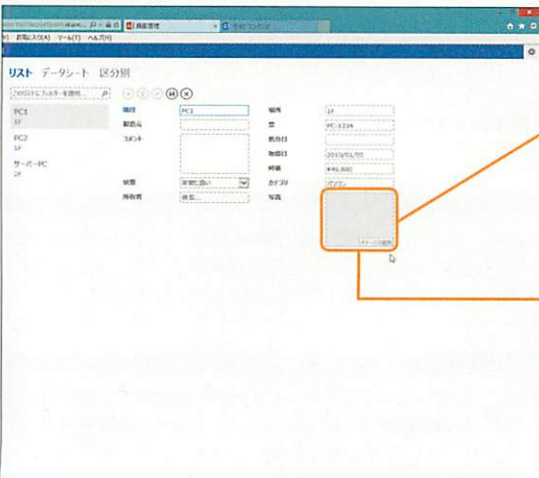
## ▼イメージの削除



② イメージを削除を実行します。

② [イメージの削除]をクリックする

## ▼画像が削除された



③ 画像が削除されました。

画像が削除された



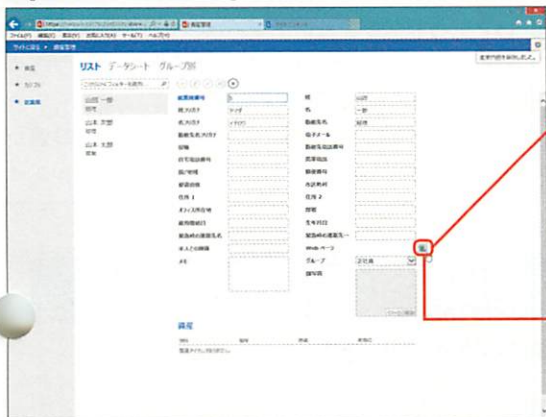


## Process

## URLを入力する

フィールドにURLを入力するには、ハイパーリンクの編集ボタンを使います。

## ▼[ハイパーリンクの編集]ボタン



① ハイパーリンクの編集ボタンをクリックします。

① [ハイパーリンクの編集]ボタンをクリックする



## ▼ハイパーリンクの編集



② アドレスと表示用のテキストを入力します。

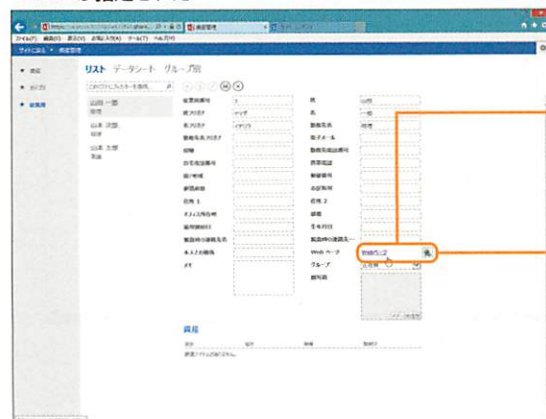
② アドレスと表示用テキストを入力し、[OK]ボタンをクリックする

## Onepoint



アドレスにはURLを、表示用テキストにはそのページのタイトルなどの表示名を指定します。

## ▼URLが指定された



③ URLがハイパーリンクとして指定されました。

URLが指定された

Webページ



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



# アプリケーションを設計する

**Keyword** ● Webアプリ ● テーブル ● ビュー ● ナビゲーションウィンドウ

通常のAccessデータベースでは、レイアウトビューなどのように、データの表示と設計が同時に行えました。しかし、アプリケーションでは、データの表示や編集はブラウザ上で行い、Accessからはアプリケーションの設計だけを行います。

アプリケーションの設計画面は、通常のAccessデータベースの画面とはかなり違って見えますが、機能が削られているだけで、基本的なところはほぼ同じです。

## Point アプリケーションの設計

ここでは、アプリケーションの設計画面について一般的な操作を説明します。

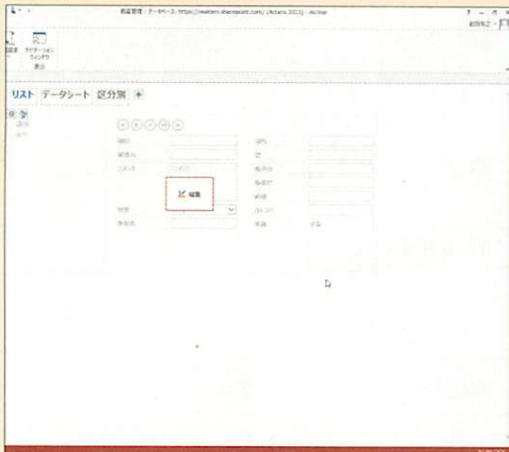
● アプリケーション設計画面を開く

● アプリケーション設計画面の構成

● テーブルやビューを追加する

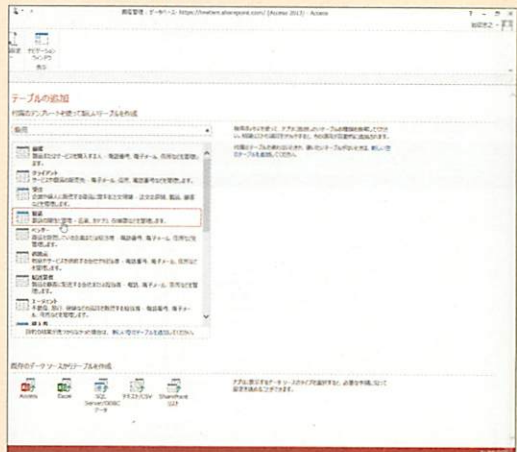
通常のAccessデータベースでは、テーブルとクエリ、フォームとレポートを使ってデータベースを構築しますが、アプリケーションの場合は、テーブルとクエリ、ビューを使って構築します。

▼ アプリケーション設計画面



アプリケーションの設計を開始する

▼ テーブルを追加する



テーブルを追加する



## 11.3.1 アプリケーション設計画面を開く



「11.1.2 アプリケーションを作成する」で説明したように、Accessの新規作成画面でアプリケーションを新規作成した場合は、すぐにアプリケーション設計画面が開きます。しかし、いったんその設計画面を閉じてしまった場合は、Accessで最近使ったファイルのリストを使って設計画面を開くか、あるいはここで説明する方法を使ってアプリケーション画面から開きます。

### Process

## アプリケーションの設計画面を開く

アプリケーションの実行画面から、Accessでカスタマイズするを実行すると、そのアプリケーションの設計画面をAccessで開くことができます。

#### 設定] ボタン



- 1 アプリケーション画面右上の設定ボタンをクリックし、Accessでカスタマイズするを実行します。
- 2 ファイルのダウンロードが始まりますので、ダウンロードしたファイルを実行します。
- 3 Accessが起動し、アプリケーションの設計画面が開きます。

1 [設定] ボタンをクリックして、[Accessでカスタマイズする]を選択する

Accessでカスタマイズする

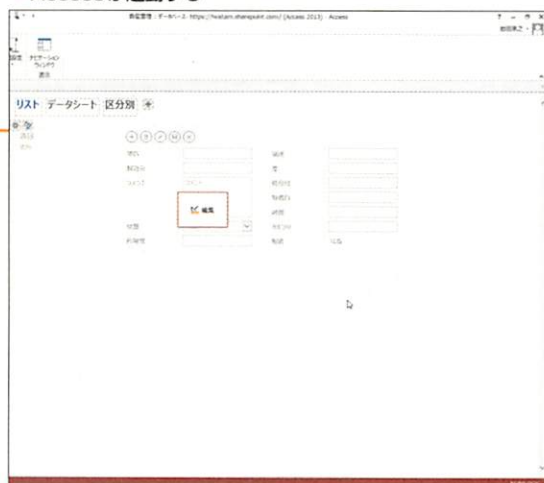
#### ▼ファイルの実行



2 [ファイルを開く]を選択する

ファイルを開く(O)

#### ▼ Accessが起動する



Accessのアプリケーション設計画面が開いた

#### Onepoint



ダウンロードされたファイルは、実際の設計データが入っているものではなく、アプリケーションのインターネット上での場所の情報だけが入っているサイズの小さいファイルです。このファイルをデスクトップなどに移動させておけば、このファイルをダブルクリックすることでアプリケーションの設計ファイルを開くことができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.3.2 テーブルを追加する



空のアプリケーションを作成したとき、あるいは既存のアプリケーションに独自のデータを追加したい場合は、テーブルを追加する必要があります。

テーブルを追加する方法には、テンプレートを使用する方法と、空のテーブルを作成する方法の2通りがあります。

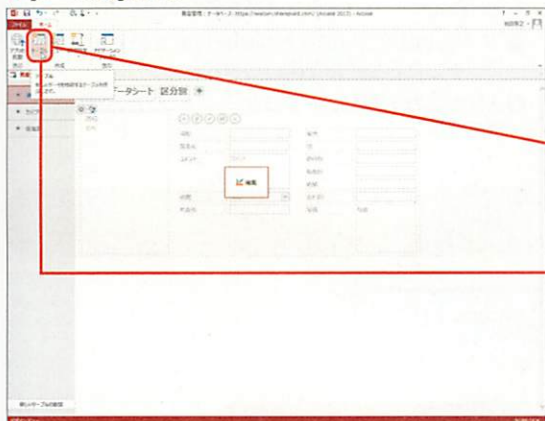
### Process

## テーブルの追加画面を表示させる



空のアプリケーションを新規作成した場合は、テーブルがまだ1つもいないため、すぐにテーブルの追加画面が表示されますが、既存のアプリケーションにテーブルを追加したい場合には、まずテーブルの追加画面を表示させなくてはなりません。それには、次のようにします。

### ▼ [テーブル] ボタン

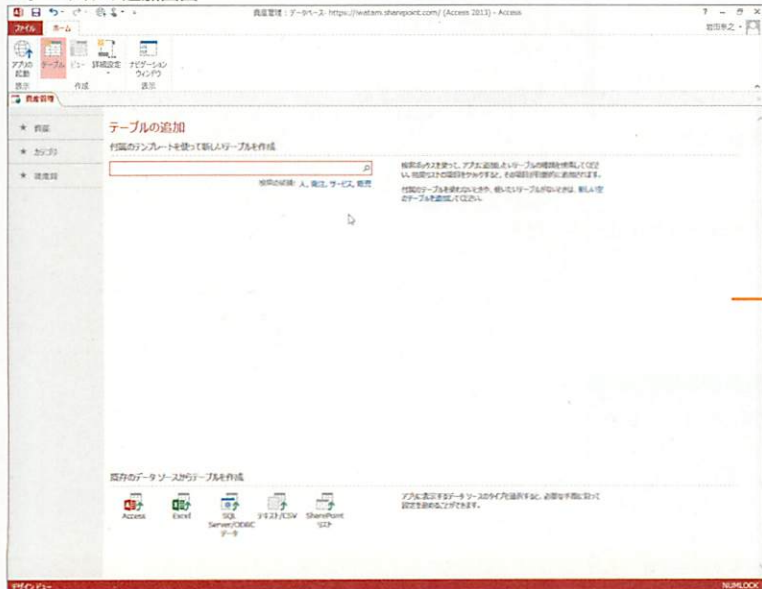


- 1 ホームタブのテーブルボタンをクリックします。
- 2 テーブルの追加画面が開きます。

1 [テーブル] ボタンをクリックする



### ▼ テーブルの追加画面



テーブルの追加画面が開いた

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

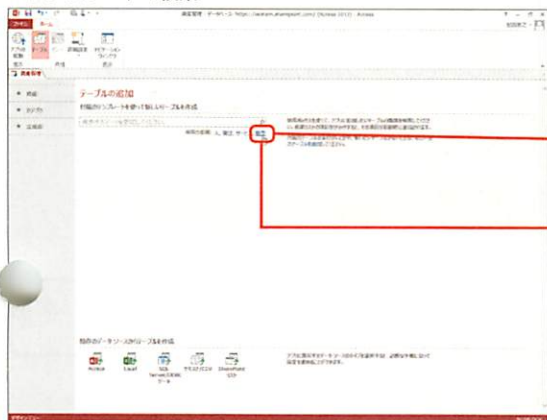


## Process

## テンプレートを使ってテーブルを追加する

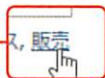
テンプレートとして用意されているテーブルを追加するには、テーブルの追加画面で、次のように操作します。

## ▼テンプレートの検索



① テンプレートを検索して候補を表示させます。検索の候補のうちのいずれかを選びます。

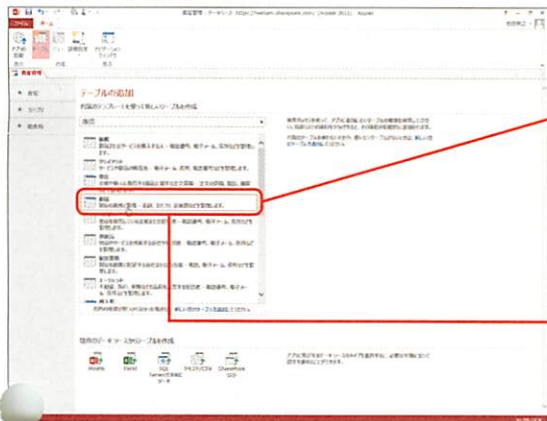
① 検索の候補のいずれかをクリックする



## Onepoint

検索ボックスに直接キーワードを入力して検索することもできます。

## ▼テンプレートの選択



② 追加したいテンプレートを選択します。

② テンプレートをクリックする

製品の属性と管理 - 名前、カテゴリ、在庫数などを管理します。

③ テーブルが追加されました。

テーブルが追加された

## Onepoint

テーブルが追加された後も、テーブルの追加画面のままです。さらに他のテーブルを追加することができます。

## Onepoint

テンプレートによっては、同時に複数の関連するテーブルが追加されることもあります。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## Process

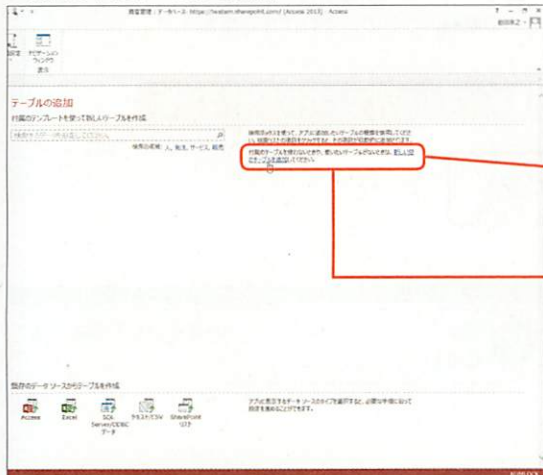
## 空のテーブルを追加する



自分が使いたいタイプのデータがテンプレートとして用意されていない場合は、空のテーブルを追加して、すべての列を自分で追加しなくてはなりません。

空のテーブルを追加するには、テーブルの追加画面で次のように操作します。

## ▼ [新しい空のテーブルを追加]

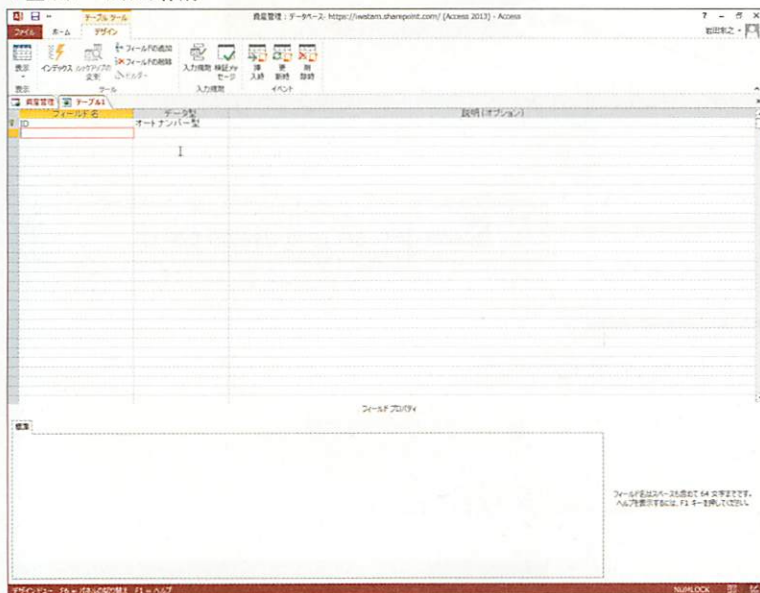


- ① 新しい空のテーブルを追加をクリックします。
- ② 空のテーブルが作成され、テーブル設計画面が開きます。

## 1 [新しい空のテーブルを追加]をクリックする

付属のテーブルを使わないときや、使いたいテーブルがないときは、新しい空のテーブルを追加してください。

## ▼ 空のテーブルの作成



空のテーブルが作成された

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## Process

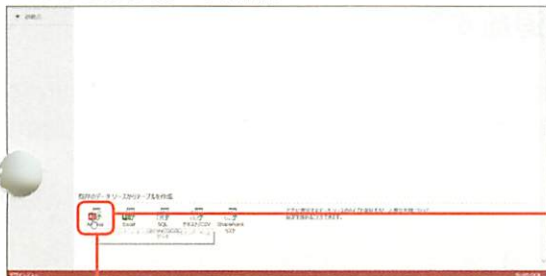
## テーブルをインポートする

Onepoint

AccessやExcelなど、ほかのファイルからテーブルをインポートすることができます。これによって、データを直接アプリケーションに入れ込むことが可能です。

インポートの設定方法は、通常のAccessデータベースのインポートと同じですので、「8.2.2 データをインポートする」を参照してください。ここでは、Accessデータベースからインポートする例を示します。

## ▼ Accessからのテーブル作成

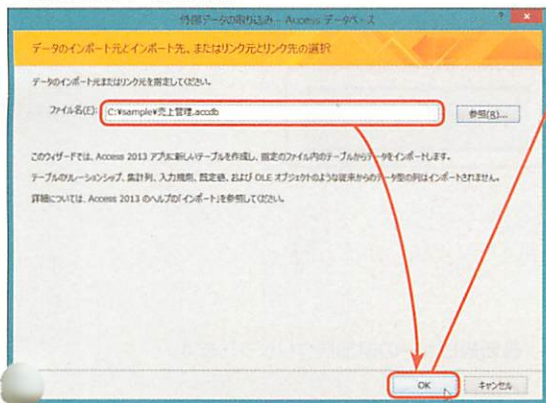


- ① Accessからテーブルを作成します。
- ② インポート元のAccessファイルを指定します。
- ③ インポートするテーブルを指定します。
- ④ インポートが終了しました。

1 [Access]をクリックする



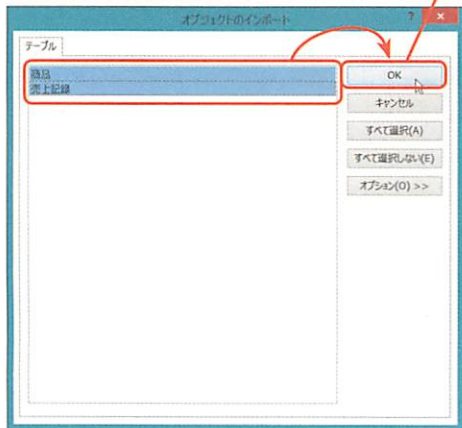
## ▼ Accessファイルの指定



2 Accessファイルを指定して、[OK]ボタンをクリックする

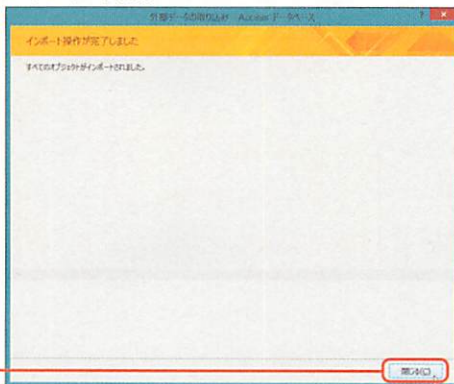
3 インポート対象を選択して、[OK]ボタンをクリックする

## ▼ インポート対象の選択



4 [閉じる]ボタンをクリックする

## ▼ インポート終了

11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## 11.3.3 ビューを追加する



ビューは、テーブルのデータを表示・編集するためのものです。Accessデータベースのフォームに相当します。

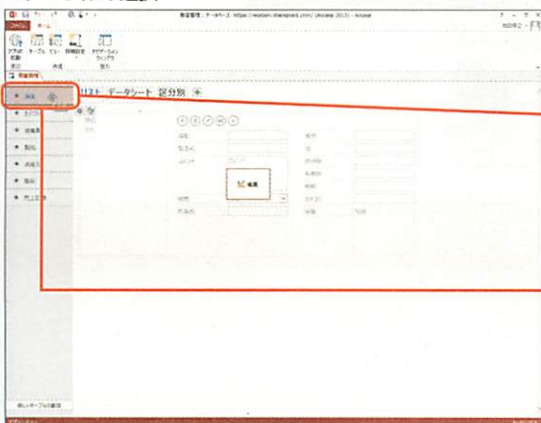
テーブルを作成すると、自動的にリストビューとデータシートビューの2つのビューが追加され、テンプレートから作成した場合には、それに加えて独自のビューも作成されます。その上にさらに新規ビューを追加することもできます。

### Process

## テーブルの新しいビューを追加する

ビューの追加は、通常、テーブルに対して違った集計方法や検索条件のリストを追加するという形で行われます。この場合、対象となるテーブルを選択して、新しいビューを追加します。

### ▼テーブルの選択

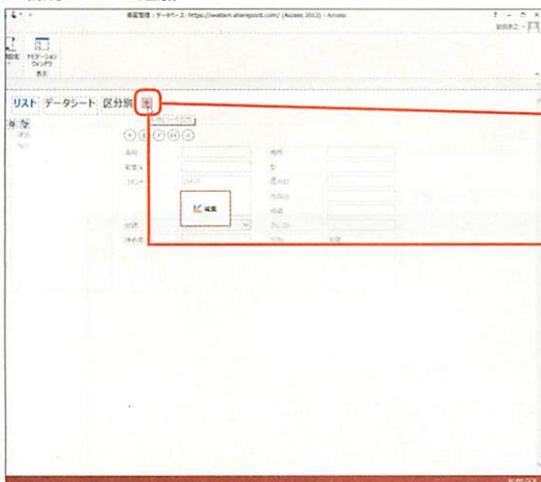


① 対象となるテーブルを選択します。

① テーブルを選択する



### ▼新規ビューの追加



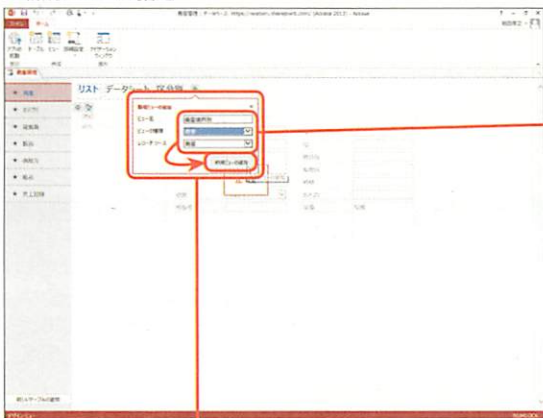
② 新規ビューの追加をクリックします。

② [新規ビューの追加]をクリックする





## ▼新規ビューの指定



③ ビュー名と種類、レコードソースを指定します。

③ ビュー名、種類、レコードソースを指定して、  
[新規ビューの追加]をクリックする

## Onepoint



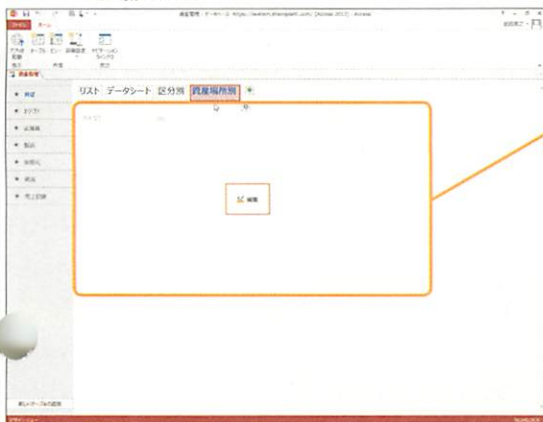
ビュー名は、アプリケーションの中で重複するものがあってはいけません。ですから、テーブル名を頭に付けて「連絡先\_詳細」というような名前にするといいでしょ。

## Onepoint



レコードソースには、指定したテーブルと、それに関連するクエリが表示されます。クエリを指定すると、リレーションを使って関連するレコードもまとめた表にしたり、条件に合致した一部のレコードのみを表示させたりすることができます。

## ▼ビューが追加された



④ ビューが追加されました。

ビューが追加された

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順



## Memo ビューの種類

ビューの種類には、4つの選択肢がありますが、それぞれ「11.2.2 アプリケーションの画面構成」で説明したビューの種類に対応します。

ビューの種類	作成されるビュー
詳細を一覧表示	リストビュー
データシート	データシートビュー
概要	概要ビュー
空白	中身のないビュー (自分で一から設計します)

資料  
Appendix

索引  
Index

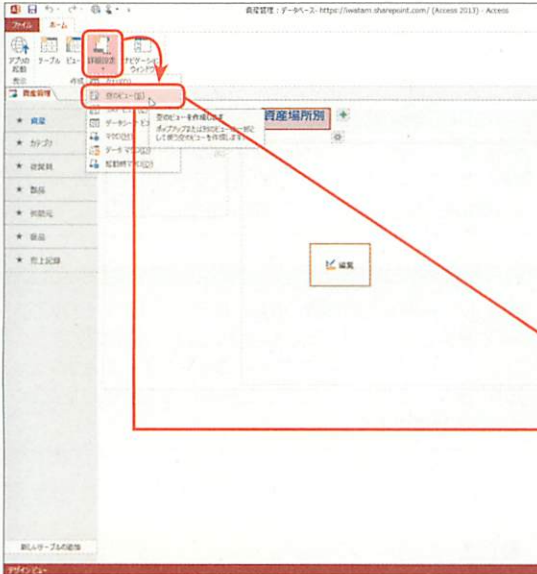
## Process

## 独立したビューを作成する



テーブルのデータに基づかないまったく独自のビューを作成したい場合には、空のビューを作成して、自分ですべてのコントロールを配置します。それには、次のように操作します。

## ▼ [詳細設定]

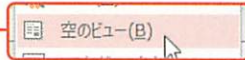


## Onepoint

空のビューを作成しただけでは、それを開く方法が用意されませんので、ビューを表示させることができません。空のビューは、表示させるために、ほかのビューのサブビューにするか、関連アイテムコントロールなどのポップアップビューに指定する必要があります（「11.5.5 関連するデータを表示させる」参照）。

① ホームタブの詳細設定の中から、空のビューを選択します。

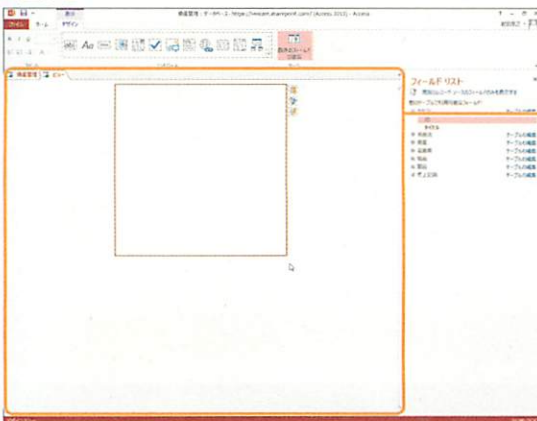
1 [詳細設定]の中の[空のビュー]を選択する



## Onepoint

詳細設定の中のリストビュー、データシートビューを選択すると、空の状態のリストビュー、データシートビューがそれぞれ作成されます。

## ▼ 空のビュー



② 空のビューが作成されました。

空のビューが作成された

## Onepoint

空のビューは、通常のAccessデータベースのフォームなどと同様に、ビューを閉じるときに名前を指定します。



## 11.3.4 クエリを追加する



アプリケーションでは、クエリは選択クエリのみが使用可能で、操作クエリは使用できません。しかし、選択クエリについては、抽出条件の設定や抽出、複数のテーブルのリレーションなど、「Chapter 5 クエリを作成する」で説明したほぼすべての機能が使用可能です。

アプリケーションでは、テーブルやビューにフィルターの機能がないため、クエリは抽出条件を指定する唯一の手段となります。そのため、クエリの重要性が上がっています。

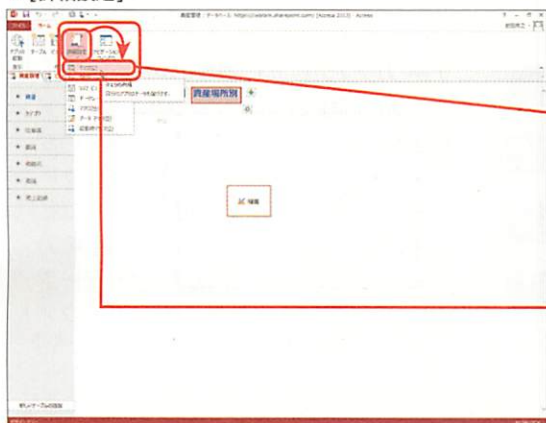
クエリの設計については「Chapter 5 クエリを作成する」を復習していただくことにして、ここではクエリの追加方法を説明します。

### Process

## クエリを追加する

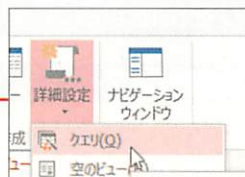
アプリケーションにクエリを追加するには、次のようにします。

#### ▼ [詳細設定]

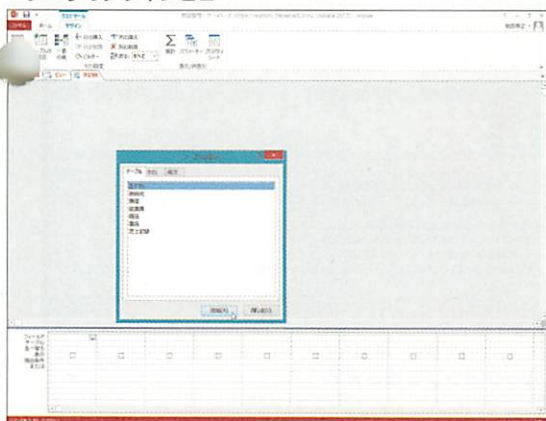


① ホームタブの詳細設定の中から、クエリを選択します。

① [詳細設定]の中の[クエリ]を選択する



#### ▼ クエリのデザインビュー



② クエリがデザインビューで開きます。

クエリのデザインビューが表示された

#### Onepoint



作成されたクエリは、ナビゲーションウィンドウには表示されますが、メイン画面には表示されません。クエリの削除や名前の変更などは、通常の Access データベースと同様に、ナビゲーションウィンドウの右クリックメニューから行います。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



# テーブルを設計する

**Keyword** ● テーブル ● ルックアップ

テーブルとクエリの設計画面は、通常のAccessデータベースのものとはほぼ変わりません。内容が一部簡素化され、使えなくなっている機能もありますが、大部分の機能は同じように使えます。

ここでは、アプリケーションにおけるテーブルやクエリの操作について、通常のAccessデータベースと違っている部分を取り上げて説明します。

## Point テーブル/クエリの設計

アプリケーションでも、テーブルやクエリの設計画面とその使い方は、通常のAccessデータベースとほぼ変わりません。

● テーブル設計画面を開く

● クエリを作成する

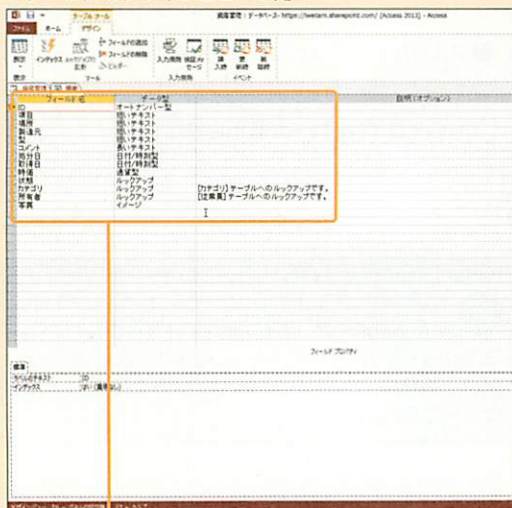
● テーブル/クエリを削除する

● ルックアップ列を設定する

テーブルやクエリは、通常のAccessデータベースと同様に、ナビゲーションウィンドウからデザインビューを開いたり、名前の変更や削除をしたりすることができます。

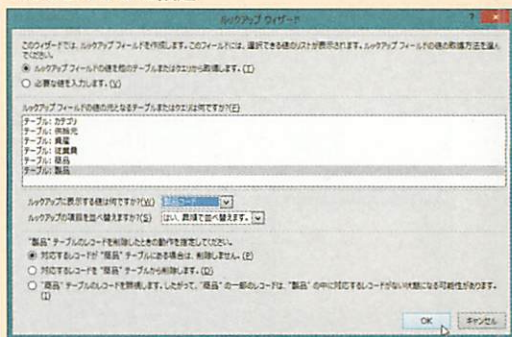
テーブルとクエリの設計画面については、一部機能が削られている他は通常のAccessデータベースと同じですが、テーブルのリレーション画面がなくなり、ルックアップで同様の設定をする点が異なります。

### ▼ テーブルのデザインビューを開く



テーブルを設計する

### ▼ ルックアップの設定



ルックアップを設定する



## 11.4.1 テーブルを操作する



アプリケーションにおいても、ナビゲーションウィンドウからテーブルやクエリのビュー指定や、名前の編集、削除などを行います。テーブルの場合は、メイン画面からも操作が可能です。

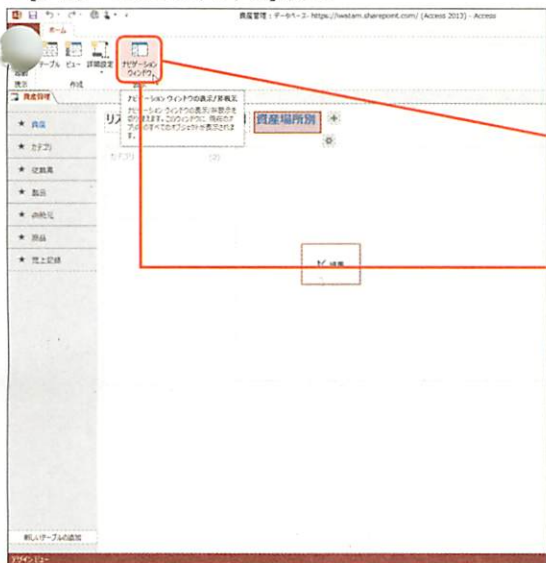
### Process

## ナビゲーションウィンドウを表示させる



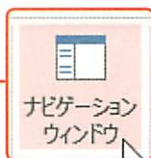
アプリケーションの設計画面では、通常はナビゲーションウィンドウが非表示状態になっています。ナビゲーションウィンドウを表示させるには、次のようにします。

### ▼ [ナビゲーションウィンドウ] ボタン



① ホームタブのナビゲーションウィンドウボタンを実行します。

① [ナビゲーションウィンドウ] ボタンをクリックする



#### Onepoint

Access データベースと違って、アプリケーションではメイン画面からテーブルやビューを追加できますので、ナビゲーションウィンドウの重要性はそれほど大きくはありません。しかし、ナビゲーションウィンドウからできない操作がいくつかあります。

#### Onepoint



同じ手順をもう一度繰り返すと、ナビゲーションウィンドウが非表示になります。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

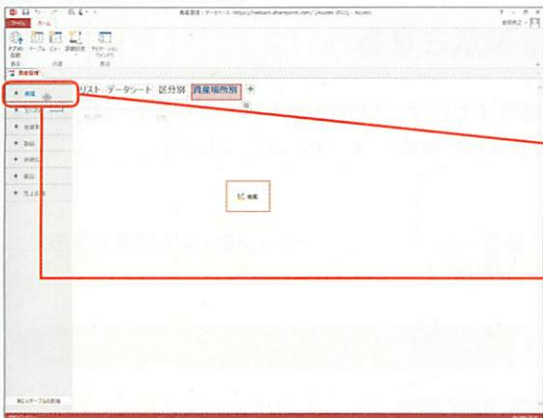
Process

テーブルを編集する



「11.3.2 テーブルを追加する」の方法でテーブルを追加した後、列を追加したりデータ型を変更したりする場合には、テーブルのデザインビューを開きます。

▼テーブルをダブルクリック

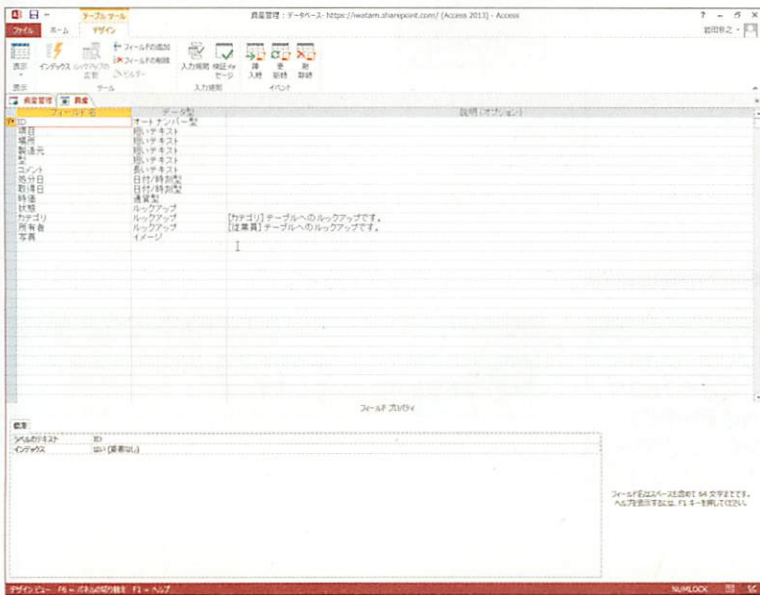


- ① メイン画面で、テーブルをダブルクリックします。
- ② テーブルがデザインビューで開きます。

1 テーブルをダブルクリックする



▼テーブルのデザインビュー



デザインビューが開いた

Onepoint  
通常のテーブルと同様に、左上隅の表示ボタンを使って、デザインビューとデータシートビューを切り替えることができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

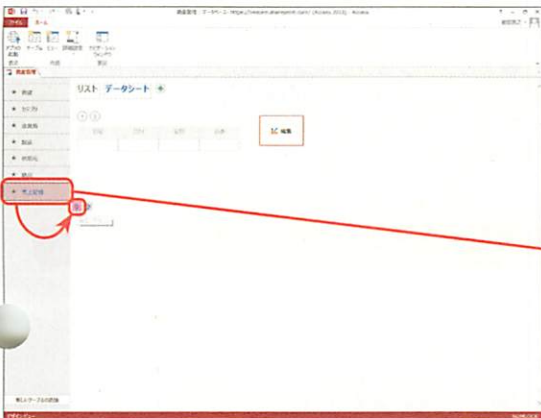


## Process

## テーブルを削除する

テーブルの削除は、メイン画面の設定/アクションメニューから行います。

## ▼[設定/アクション]メニュー



- ① メイン画面でテーブルを選択し、設定/アクションメニューを出します。
- ② 削除を実行します。
- ③ 削除の確認メッセージが表示されます。
- ④ テーブルが削除されました。

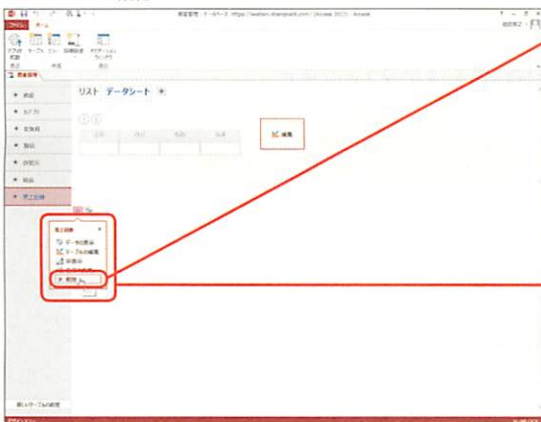
① テーブルを選択し、[設定/アクション]メニューをクリックする

## Onepoint

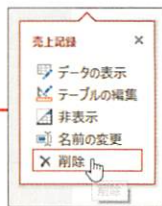


テーブルで右クリックしても同様の結果になります。

## ▼テーブルの削除

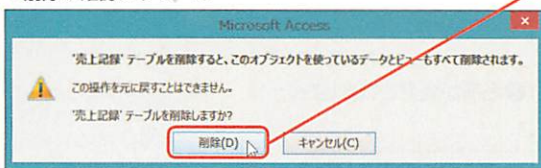


② [削除]をクリックする



③ [削除] ボタンをクリックする

## ▼削除の確認メッセージ



## ▼テーブルが削除された



テーブルが削除された

## Onepoint



テーブルを削除すると、関連するビューも同時に削除されてしまいます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

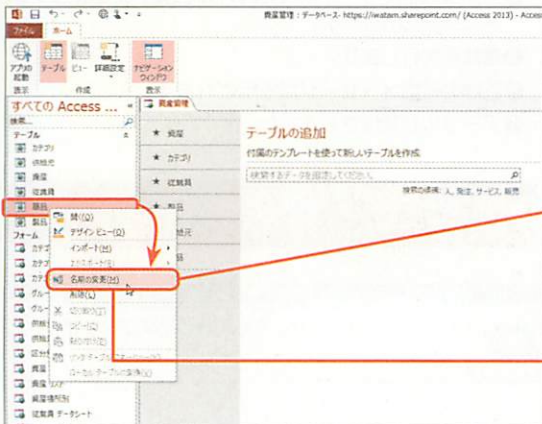
## Process

## テーブルの名前を変更する



テーブルの名前の変更は、ナビゲーションウィンドウの右クリックメニューから行います。

## ▼ [名前の変更] の選択

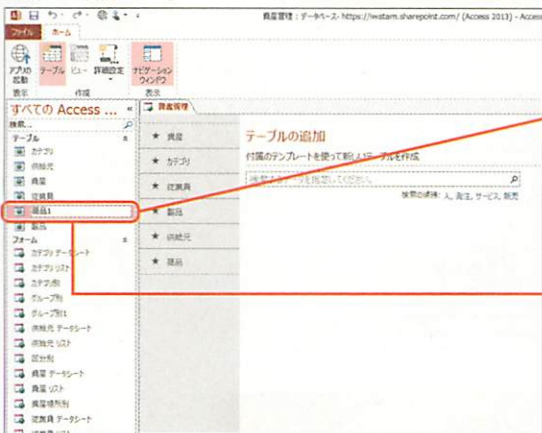


- ① ナビゲーションウィンドウでテーブルの右クリックメニューを出し、**名前の変更**を選択します。
- ② 新しい名前を入力します。
- ③ 名前が変更されました。

① 右クリックメニューから**[名前の変更]**を選択する

名前の変更(M)

## ▼ 新しい名前の入力

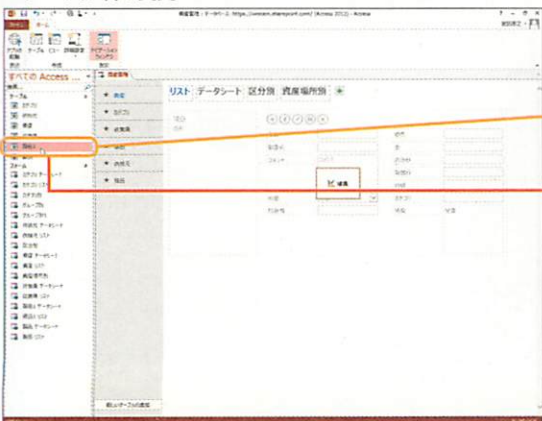


② 新しい名前を入力します。

② 新しい名前を入力し、**[Enter]** キーを押す

商品1

## ▼ テーブル名の変更



③ 名前が変更されました。

テーブル名が変更された

商品1

## Attention

- ⚡ この方法では、テーブルの内部的な名前は変わりますが、メイン画面に表示されるテーブル名は変更されません。メイン画面に表示されるテーブル名を変えるには、次の「Process テーブルの表示名を変更する」を実行します。



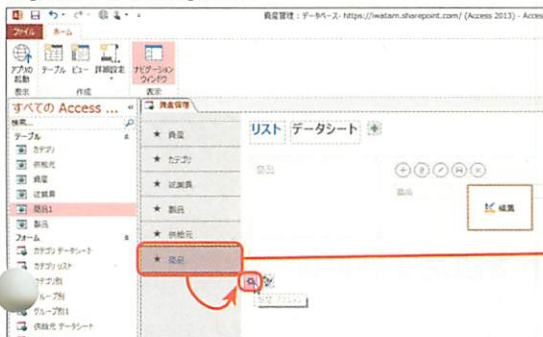
## Process

## テーブルの表示名を変更する



メイン画面に表示されているテーブルの名前を変更するには、設定/アクションメニューから名前の変更を実行します。

## ▼[設定/アクション]メニュー



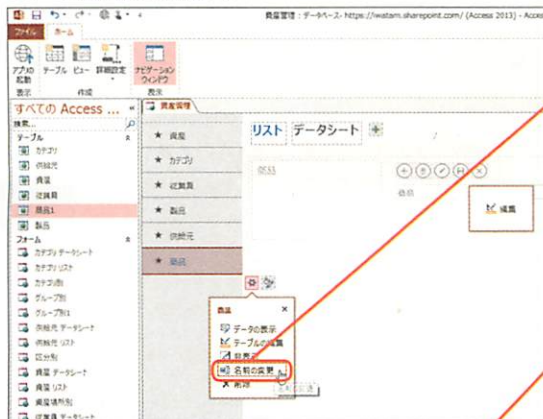
- ① メイン画面でテーブルを選択し、設定/アクションメニューを出します。
- ② 名前の変更を実行します。
- ③ 新しい名前を入力します。
- ④ テーブルの表示名が変更されました。

① テーブルを選択し、[設定/アクション]メニューをクリックする

## Onepoint

テーブルで右クリックしても同様の結果になります。

## ▼テーブルの表示名の変更

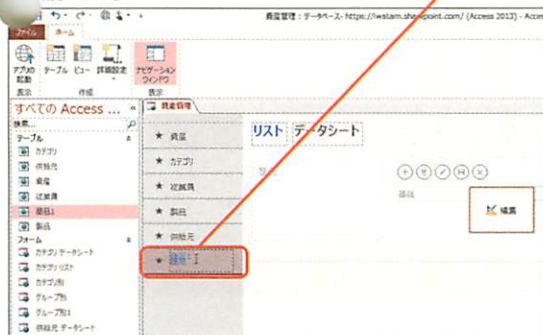


② [名前の変更]をクリックする

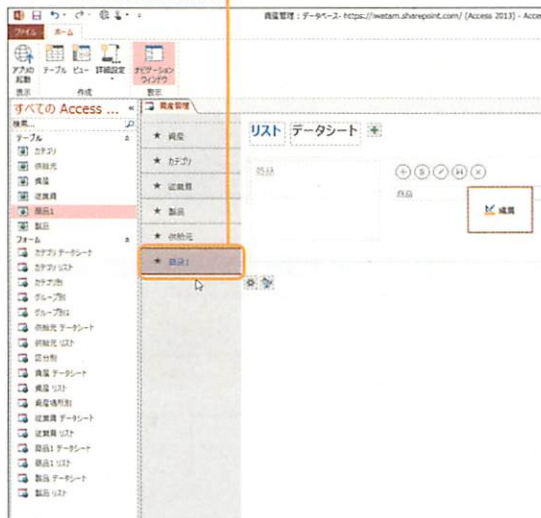
③ 名前を入力する

テーブルの表示名が変更された

## 名前を入力



## ▼テーブルの表示名変更



## Attention



この方法では、メイン画面に表示される名前が変更されるだけで、テーブルの本当の名前は変わりません。テーブルの本当の名前を変えるには、前の「Process テーブルの名前を変更する」を実行します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.4.2 ルックアップを設定する



アプリケーションでは、通常の Access データベースにおけるリレーションシップ画面に相当するものではありません。テーブル間の結び付けは、ルックアップの設定によって行います。

ルックアップには、他のテーブルの値と結びつける他に、値のリストを直接入力することもできます。この機能を使うと、複数の選択肢から選ぶタイプの列を作成することができます。

### Onepoint



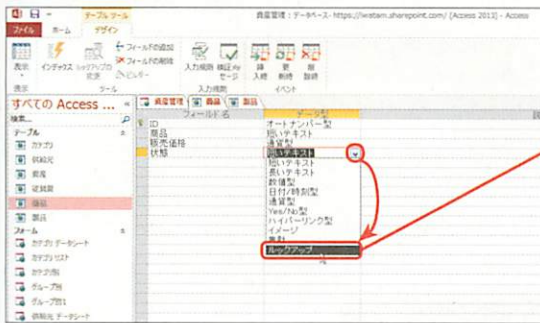
ルックアップ列について詳しくは、「4.6 ルックアップ列」を参照してください。

### Process

## ルックアップ列に値のリストを設定するには

ルックアップ列として値のリストを設定するには、テーブルのデザインビューで、次のように操作します。

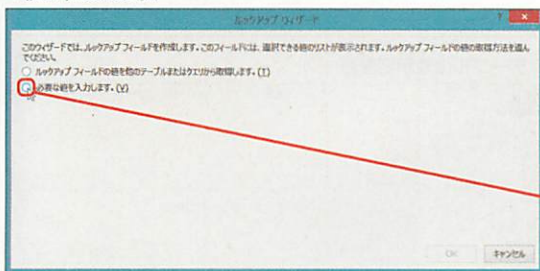
### ▼ルックアップの選択



① フィールドの、データ型の欄でルックアップを選択します。

① [ルックアップ]を選択する

### ▼値の種類を選択

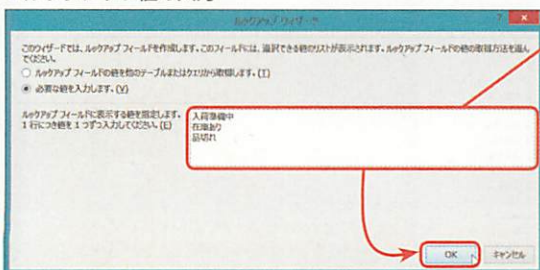


② ルックアップウィザードが起動しますので、必要な値を入力しますを選択します。

③ 値を入力するフィールドが現れるので、1行につき1項目ずつ値を入力します。

② [必要な値を入力します]を選択する

### ▼ルックアップ値の入力



③ 値を入力し、[OK]ボタンをクリックする

### Onepoint



Access データベースのルックアップウィザードと比べると、値のリストを入力する部分は簡素になっています。「4.6.2 ルックアップ列を設定する」の例と比較してください。

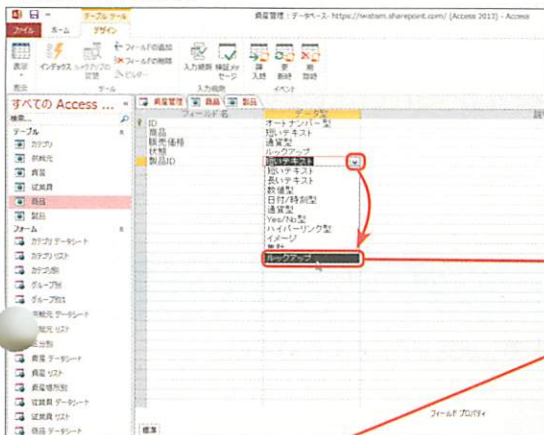


## Process

## ルックアップ列に他のテーブルを結び付けるには

他のテーブルやクエリの値をルックアップ列として使用するには、次のようにします。

## ▼ルックアップの選択



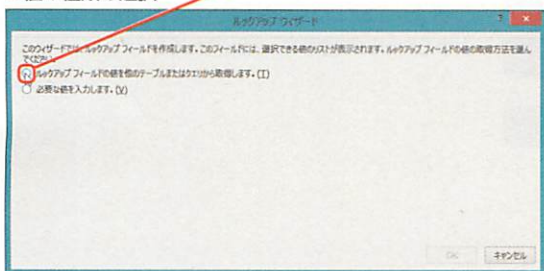
- 1 フィールドの、データ型の欄でルックアップを選択します。
- 2 ルックアップウィザードが起動しますので、ルックアップフィールドの値を他のテーブルまたはクエリから取得しますを選択します。
- 3 値の元となるテーブルと、結び付け方を指定します。

1 [ルックアップ]を選択する

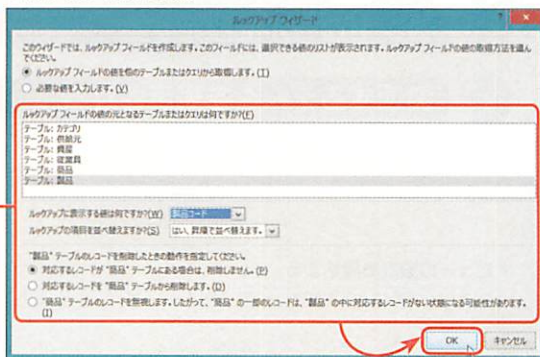
2 [ルックアップフィールドの値を他のテーブルまたはクエリから取得します]を選択する

3 テーブルと列などを指定し、[OK]ボタンをクリックする

## ▼値の種類を選択



## ▼ルックアップの設定



## Memo ルックアップウィザードの各項目

テーブルの値をルックアップ列に設定するには、ルックアップウィザードで各項目に次の値を設定します。

項目	意味
ルックアップフィールドの値の元となるテーブルまたはクエリは何ですか？	ルックアップの対象となるテーブルまたはクエリを指定します。
クエリのアイテムを一意に識別するフィールドはどれですか？	(クエリを指定した場合のみ) テーブルにおける主キーにあたるフィールドを指定します。
ルックアップに表示する値は何ですか？	ルックアップに表示する値を指定します。例えば、名前や品番など、人が見て区別できる値を指定します。
ルックアップの項目を並べ替えますか？	コンボボックスなどの表示で、項目を並べ替えたい場合に、並び順を昇順または降順で指定します。
テーブルのレコードを削除したときの動作を指定してください	(テーブルを指定した場合のみ) ルックアップ列が参照している先のレコードが削除されたとき、どのように処理するかを指定します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



# ビューの設計

**Keyword** ● 概要ビュー ● コントロール ● ハイパーリンク ● Webブラウザ

アプリケーションが通常のAccessデータベースと大きく違う点が、データを表示するビューです。機能的にはAccessデータベースのフォームに相当しますが、コントロールを自由に配置することはできず、自動的に並べられてしまいます。また、コントロールの種類もいくつか違ってきます。

## Point ビューの設計

ビューの設計は、フォームと同様に、コントロールを配置し設定することで行います。

● レコードソースを指定する

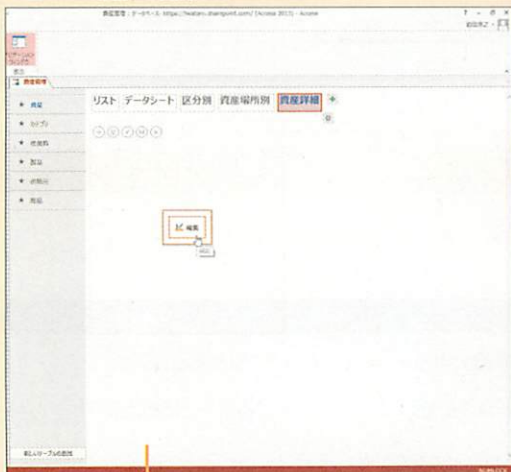
● コントロールを配置する

● コントロールを設定する

● 関連するデータを表示させる

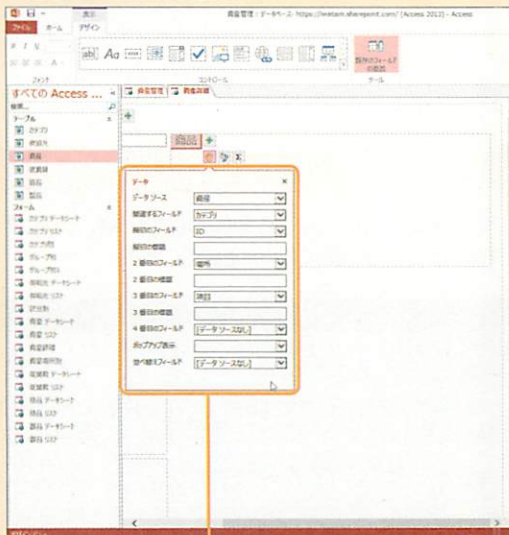
ビューへのコントロールの配置は、フォームのデザインビューとほぼ同じです。テキストボックスやラベルなどを並べて、画面を作ります。ただし、プロパティシートはなく、コントロールの種類が一部違ってきます。

### ▼ビューの設計を開始する



[設計] ボタンをクリックする

### ▼関連するデータを表示させる



関連するデータを表にする



## 11.5.1 ビューの設計をする



ビューの設計を始めるには、まず、ビューの設計画面を開かなくてはなりません。その後、ビューにコントロールを配置していきます。

空のビューを作成したときは、そのビューにどのテーブル（またはクエリ）のデータを表示させるのかを指定しなくてはなりません。これをレコードソースといいます。

### Process

## ビューの設計を開始する

ビューの設計を開始するには、メイン画面で大きく描かれている設計ボタンをクリックします。

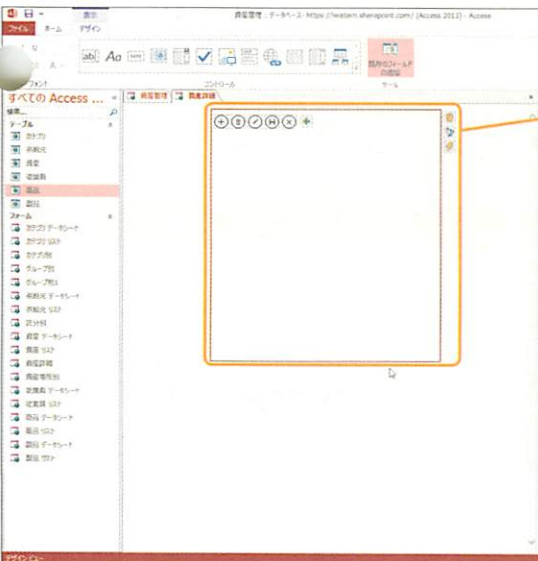
### ▼ [設計] ボタン



① 設計ボタンをクリックします。

① [設計] ボタンをクリックする

### ▼ 設計画面



② 設計画面が開きます。

設計画面が開いた

### Onepoint



ナビゲーションウィンドウあるいはメイン画面でのビューのタブをダブルクリックしても同様に設計画面が開きます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## Process

## レコードソースを指定する

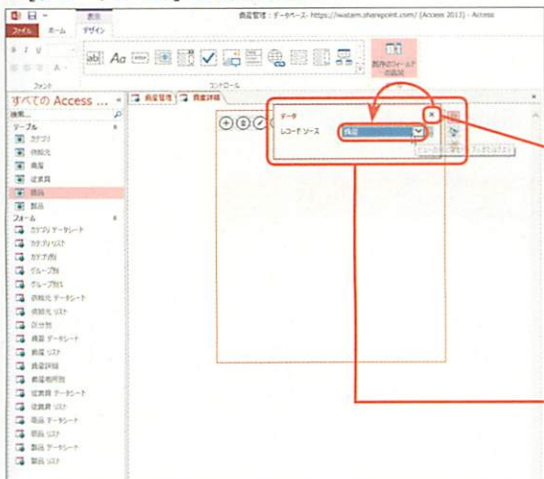


空のビューを追加した場合には、そのビューにどのテーブル（またはクエリ）のデータを表示すればいいのかが指定されていません。そのため、このままではデータを表示させることができません。

メッセージを表示するダイアログボックスのように、データを表示する必要がないのであればこのままでもかまいませんが、データを表示させたい場合には、レコードソースを指定しなくてはなりません。

レコードソースの指定は、ビューの設計画面で行います。

## ▼ [レコードソース] コンボボックス



① データの中のレコードソースコンボボックスに値を指定します。

① [データ]をクリックし、出現した[レコードソース]コンボボックスに値を指定する



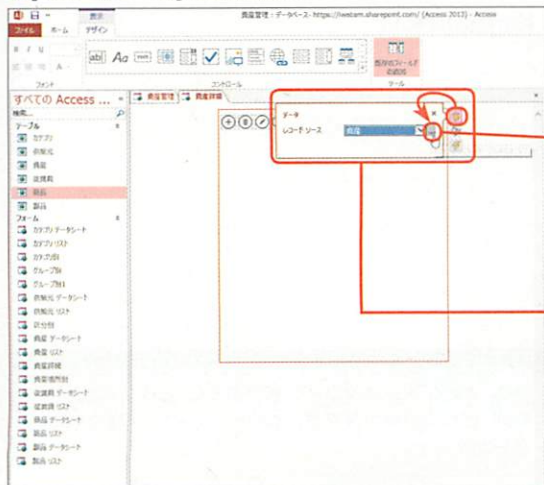
## Process

## レコードソースとなるクエリを作成する



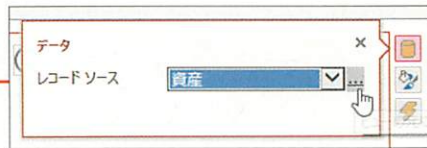
既存のテーブルやクエリではなく、独自のクエリで作成されたデータをビューのレコードソースに指定したい場合は、次のように操作します。

## ▼ [レコードソース] コンボボックス



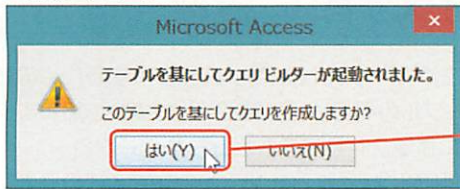
① データの中の、レコードソースコンボボックスの横の...ボタンをクリックします。

① [データ]をクリックし、[...]ボタンをクリックする





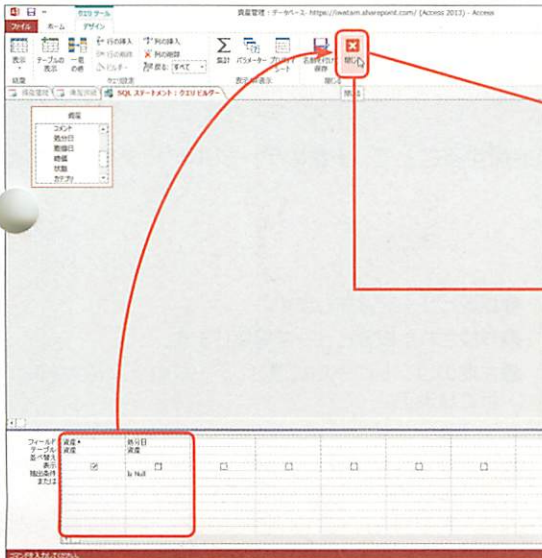
## ▼確認メッセージ



2 確認メッセージが表示されますので、はいを選択します。

2 [はい] ボタンをクリックする

## ▼クエリ設計画面

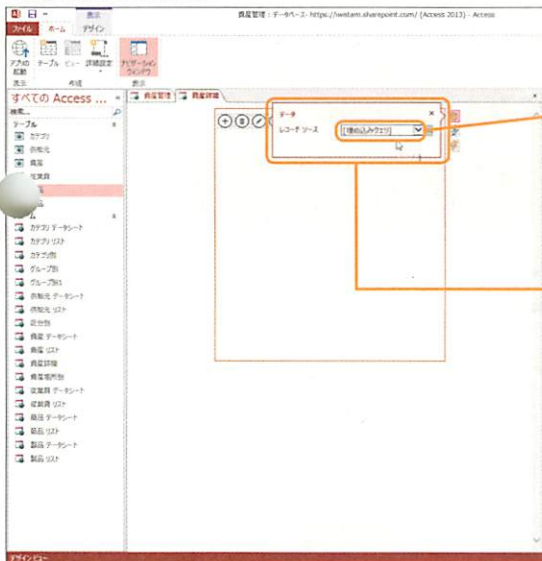


3 クエリ設計画面で、クエリを設計します。

3 クエリを設計し、[閉じる]をクリックする



## ▼埋め込みクエリに設定



4 レコードソースが埋め込みクエリに設定されます。

[埋め込みクエリ] に設定された



## Onepoint

埋め込みクエリにすると、ナビゲーションウィンドウに表示されなくなってしまうため、テーブルの設計を変更したとき、関連するクエリの設計を変更し忘れてしまうことがあります。そのため、埋め込みクエリよりは名前を付けてクエリを保存することをおすすめします。しかし、抽出条件が違うだけのビューを大量に作らなくてはならない場合などには、埋め込みクエリにしてしまってもよいでしょう。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.5.2 概要ビューをカスタマイズする



概要ビューは、テーブルのレコードをグループ分けしてリスト表示するためのビューです。複数の方法でグループ化できるテーブルの場合は、概要ビューも複数追加します。

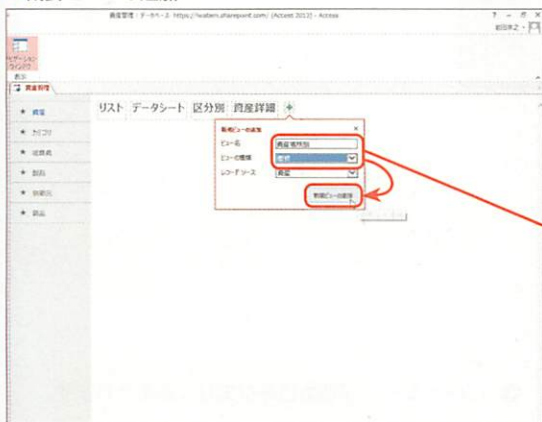
テーブルを作成されたときに自動的に作成されるリストビューやデータシートビューは、必要な設定やコントロールの追加が自動的になされるため、カスタマイズの必要はないことがほとんどです。多くの場合、概要ビューを追加することから、ビューのカスタマイズを始めます。

### Process

### 違う方法でグループ化する

違う方法でグループ化したビューを追加することで、多量のテーブルデータを見やすくし、必要なデータを探しやすくします。

#### ▼概要ビューの追加



- ① 概要ビューを追加します。
- ② 作成された概要ビューを編集します。
- ③ 左側のコントロールを選び、データウィンドウを表示させます。

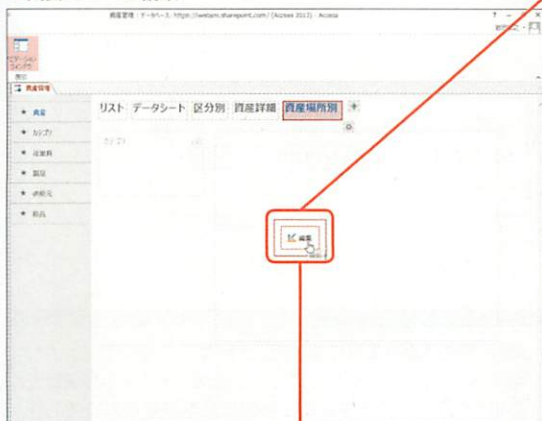
① [新規ビューの追加]をクリックし、ビュー名を指定し、ビューの種類に[概要]を選択して[新規ビューの追加]をクリックする

#### Onepoint



概要ビューの追加方法について詳しくは、「11.3.3 ビューを追加する」を参照してください。

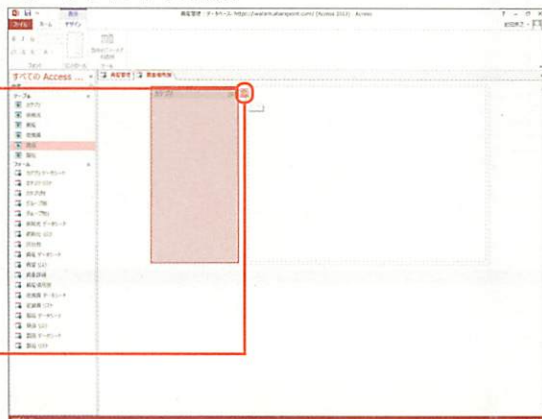
#### ▼概要ビューの編集



② [編集]ボタンをクリックする

③ 左側のコントロールを選択し、[データ]ボタンをクリックする

#### ▼データウィンドウの表示



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

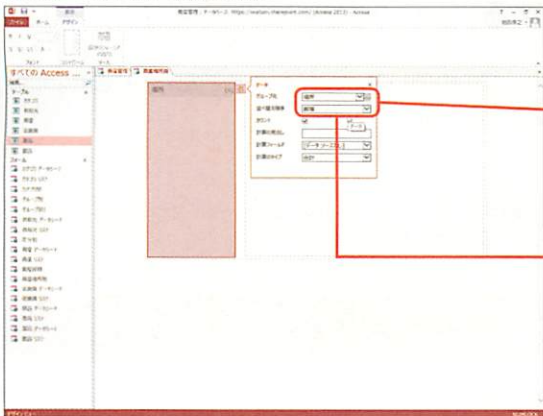
13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## ▼グループ化と並べ替えの指定



④ グループ化と並べ替えを指定します。

④ グループ化したい列と、並べ替えの順番を指定する

場所  ...

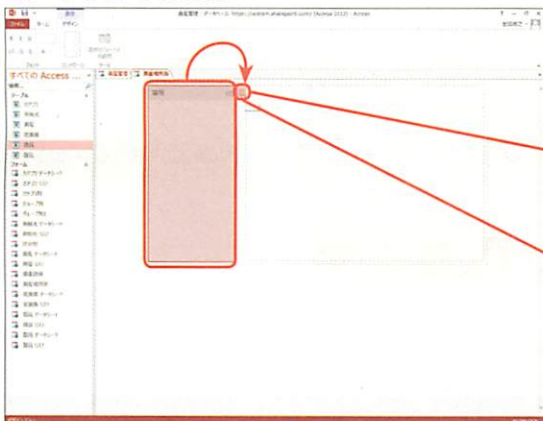
昇順

## Process

## グループごとに集計する

概要ビューでは、グループ化と同時に、各グループで値を集計することができます。

## ▼データウィンドウの表示

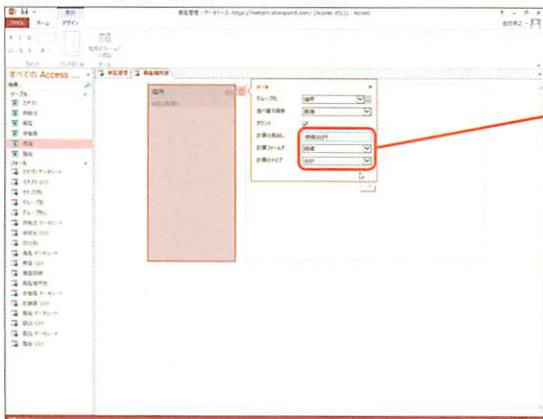


① 左側のコントロールを選び、データウィンドウを表示させます。

① 左側のコントロールを選択し、[データ]ボタンをクリックする



## ▼計算フィールドと計算のタイプの指定



② 計算フィールドと計算のタイプを指定します。

② 計算対象の列と、計算の方法を指定する

## Onepoint



カウントにチェックを入れると、グループ内のレコード数が表示されます。

## Onepoint



計算の見出しには、計算結果の見出しを指定することができます。

11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## Process

## レコードの表示方法を変更する

概要ビューの右側には、選択したグループの中のレコードが表形式で表示されます。この表に表示される項目などを、自由にカスタマイズすることができます。

## ▼データウィンドウの表示



① 右側のコントロールを選び、データウィンドウを表示させます。

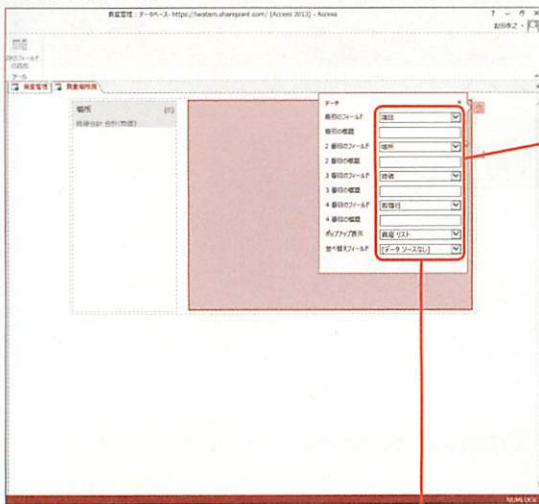
① 右側のコントロールを選択し、[データ]ボタンをクリックする

## Onepoint



表には4つまでの列を表示させることができます。それぞれの列に表示させる列と、その表題を指定することができます。

## ▼表のカスタマイズ



② 各列のフィールドと表題、並べ替えやポップアップ表示ビューを指定します。

② 各項目を指定する

## Onepoint



ポップアップ表示には、表の各レコードをクリックしたときに表示させるビューの名前を指定します。

## Onepoint



並べ替えフィールドに列を指定すると、その列で並び替えが行われます。

項目	▼
場所	▼
特徴	▼
取得日	▼
資産リスト	▼
[データソースなし]	▼

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## 11.5.3 コントロールを配置する



フォームのデザインビューと同様に、ビューの設計も、コントロールを配置することによって行います。フィールドリストからドラッグする方法と、コントロールのボタンをクリックする方法の2種類があるところも、フォームと同様です。

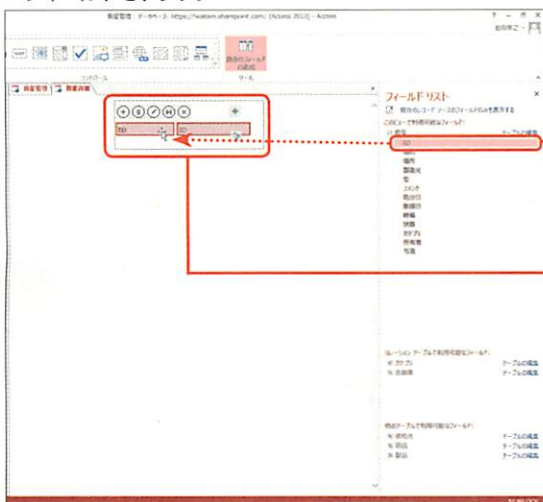
ビューでは、フォームのように自由にコントロールを配置するのではなく、コントロールが自動的に再配置されます。このため、コントロールが互いに重ならないように並べるのが容易になっています。

### Process

## フィールドを追加する

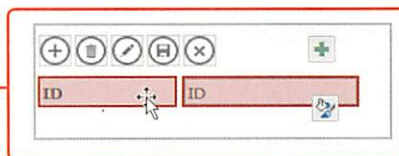
ビューにコントロールを配置する最も基本的な方法が、フィールドリストを使う方法です。画面右側のフィールドリストから、フィールドを設計画面内にドラッグします。

### ▼フィールドをドラッグ

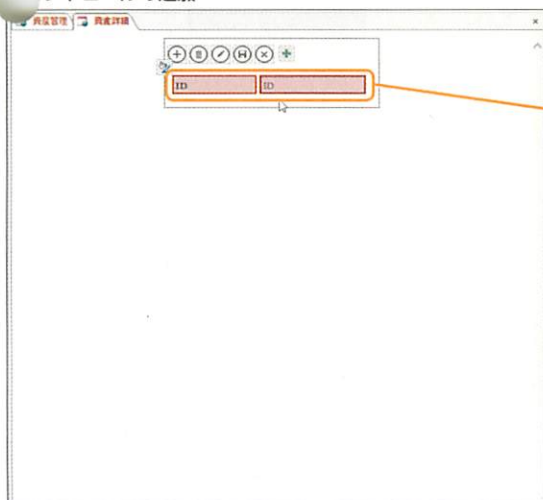


① 追加したいフィールドを、フィールドリストからビューヘドラッグする

① フィールドをドラッグする



### ②コントロールの追加



② フィールドのコントロールが追加されました。

コントロールが追加された

### Onepoint



この方法を使うと、コントロールソースなどの指定も自動的に行われます。必要に応じて書式の設定をただで済みますので、簡単にコントロールを配置することができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

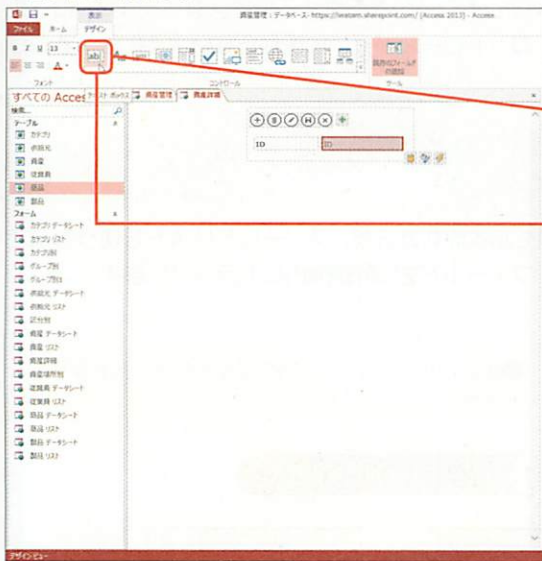
Process

コントロールを配置する



リボンのコントロールの中にある各種のコントロールボタンをクリックすると、対応するコントロールがビューに追加されます。

▼コントロールボタン

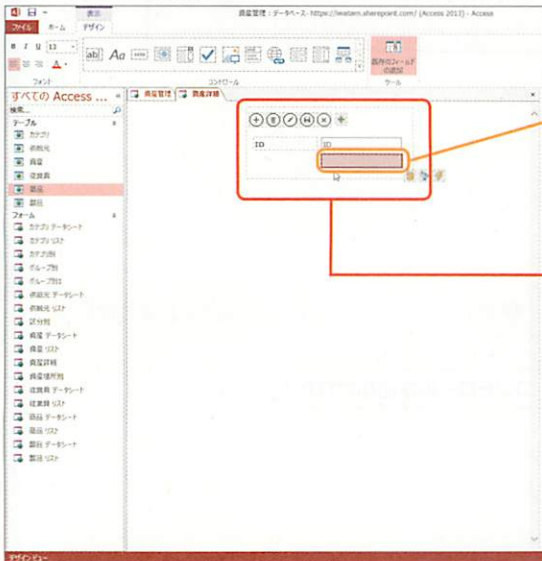


① 追加したいコントロールのボタンをクリックする

1 コントロールのボタンをクリックする

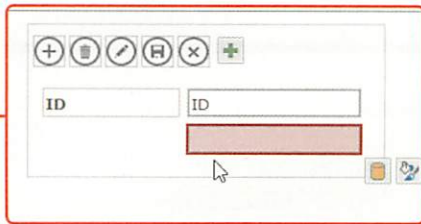


▼コントロールの追加



② コントロールが追加されました。

コントロールが追加された



Onepoint



フォームのデザインビューとは違って、ボタンをクリックするだけでコントロールが配置されます。コントロールを特定の場所に配置したい場合は、その後でコントロールをドラッグして移動させます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



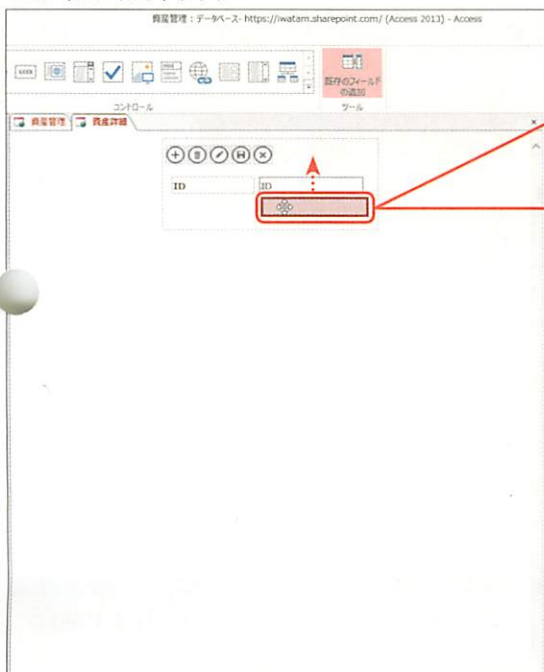
## Process

## コントロールの配置を変更する



コントロールを選択してドラッグすると、ドラッグ開始時の位置によって、コントロールの移動やサイズの変更ができます。この操作は、通常の図形に対する操作と同じです。

## ▼コントロールのドラッグ

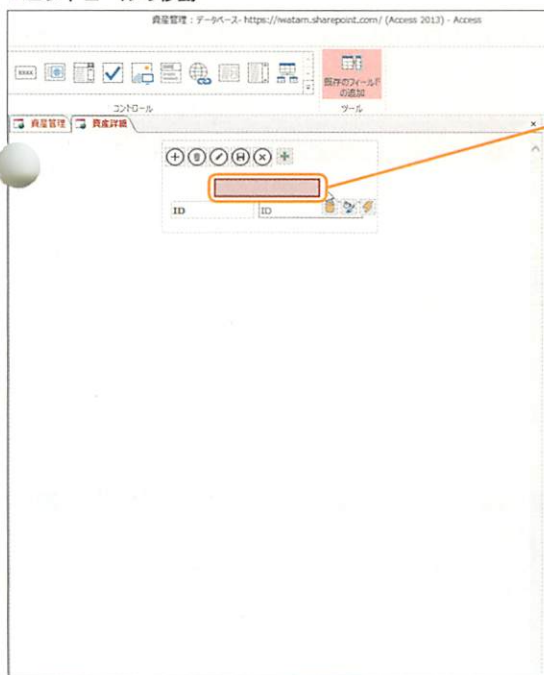


① コントロールを選択し、ドラッグします。

① コントロールをクリックし、そのままドラッグする



## ▼コントロールの移動



② コントロールの配置が変わりました。

コントロールの配置が変わった

## OnePoint



[Ctrl] キーで複数選択してドラッグすると、複数のコントロールをまとめて移動したりサイズを変更したりすることができます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

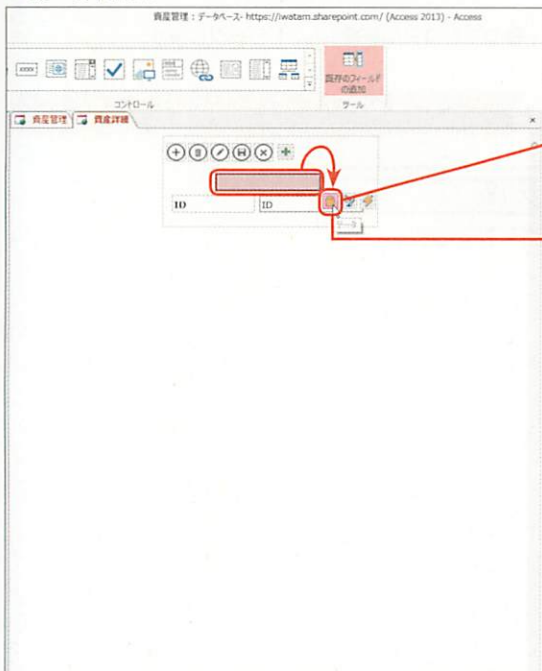
## Process

## コントロールソースを指定する



ボタンでコントロールを配置した場合には、そのボタンにどのデータを表示するかという情報を設定しなくてはなりません。そのためには、**データウィンドウ**を使います。

## ▼[データ]ボタン



① コントロールを選択し、**データボタン**をクリックします。

① [データ]ボタンをクリックする

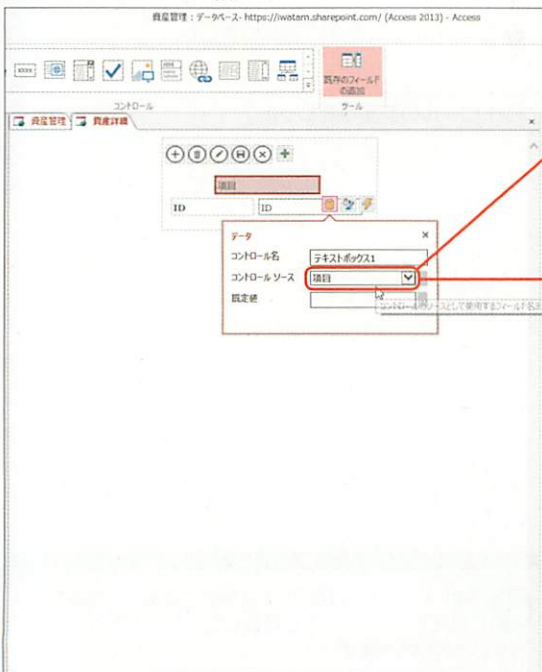


## Onepoint



コントロールで右クリックすることでも、同じ操作が可能です。

## ▼コントロールソースの指定



② コントロールソースに、テーブルやクエリの列名を指定します。

② [コントロールソース]に列名を指定する



## Onepoint



コンボボックス右隣の…ボタンをクリックすると、式を指定することができます。式の中には、列の名前を含めることができます。例えば、「単価 \* 数量」のように、何らかの計算をしてその結果を表示させたい場合には、このボタンを使います。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



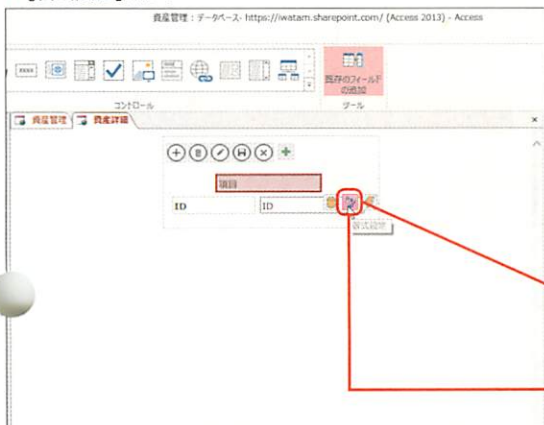
## Process

## 書式を設定する



コントロールの書式設定ウィンドウには、コントロールの書式を指定する項目が並んでいます。ここで値を変更することで、コントロールの書式を変えることができます。

## ▼ [書式設定] ボタン



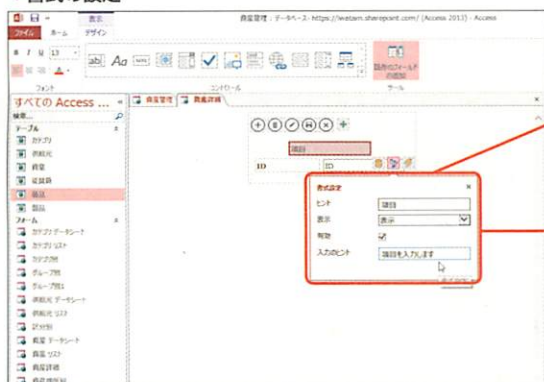
**Onepoint**  
書式設定ウィンドウは、フォームのプロパティシート  
の書式タブに相当します（「10.2 プロパティを設定  
する」参照）。

① コントロールを選択し、書式設定ボタンをクリック  
します。

① [書式設定] ボタンをクリックする



## ▼ 書式の設定



② 各種書式を設定します。

② 書式を設定する



## Memo コントロールの共通書式設定

コントロールの書式設定ウィンドウに表示される項目は、コントロールの種類によって違います。

コントロールごとの詳しい書式設定は「11.5.4 コントロール独自の設定をする」と「11.5.5 関連するデータを表示させる」で説明しますが、多くのコントロールで共通する書式についてここで説明します。

項目	意味
表示	[非表示]にすると、コントロールが表示されなくなります。
有効	チェックボックスを外すと、灰色で表示され、データを編集することができなくなります。
ヒント	コントロールの上にカーソルを置いたときに表示されるメッセージを指定します。
既定値	値が入力されていないときに表示される値を指定します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

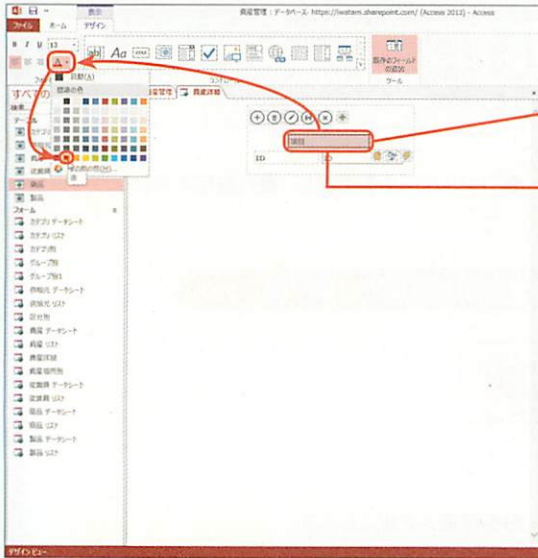
Process

## 文字のフォントを変更する



コントロールの動作ではなく、表示される文字の大きさや色などを変更したい場合は、デザインタブのフォントグループを使用します。

### ▼フォントの指定

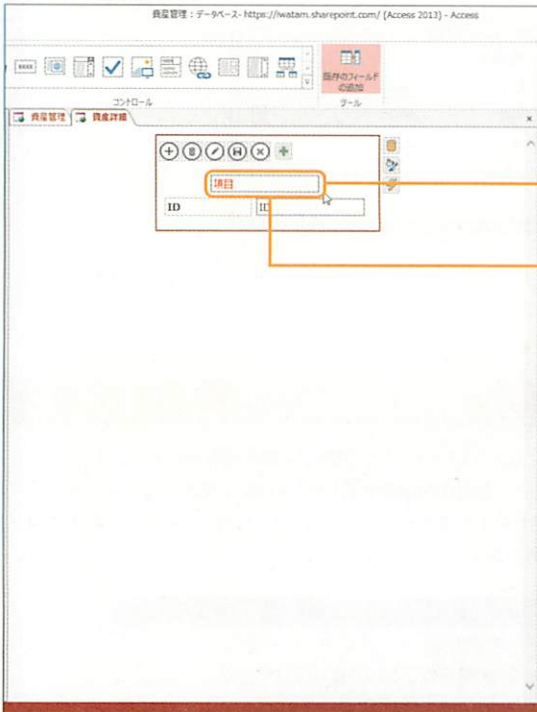


① コントロールを選択し、フォントを指定します。

① コントロールを指定し、色を赤に変更する

項目

### ▼フォントが変わった



② フォントが変わりました。

色が赤になった

項目



## 11.5.4 コントロール独自の設定をする



テキストボックスやボタン、チェックボックスといった一般的なコントロールの使い方は、フォームのデザインビューと同じです。ここでは、少し特殊な使い方をするコントロールについて説明します。

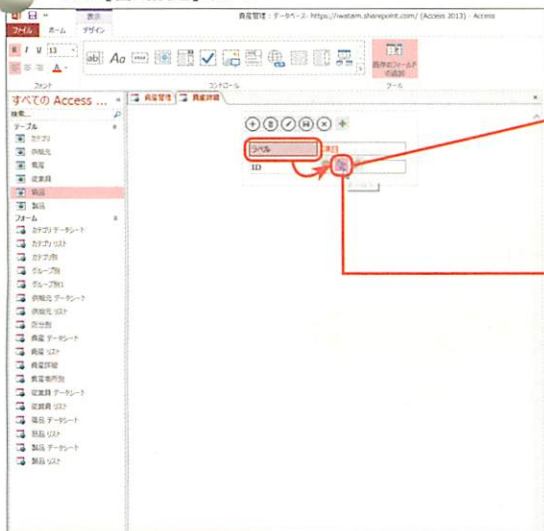
### Process

## ラベルをコントロールとリンクさせる

ラベルは、テキストボックスなどのコントロールの横に配置して、コントロールの名前を表示するのによく用いられます。この場合、ラベルとコントロールをリンクさせると、自動的に再配置する場合に、お互いが離れ離れにならず一緒に移動するように調整されます。

この設定は、ラベルの書式設定ウィンドウで行います。

### ラベルの[書式設定]ボタン

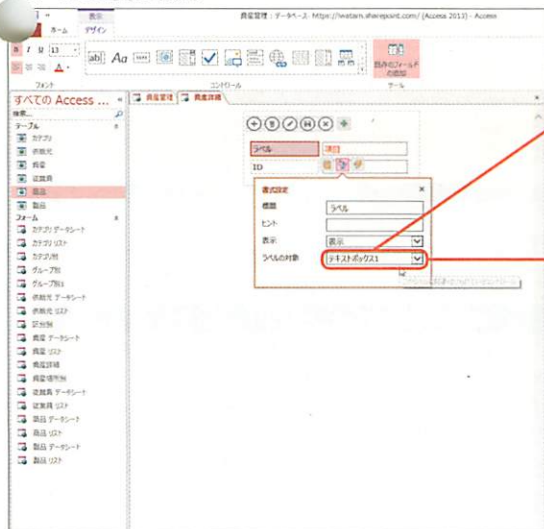


① ラベルの書式設定ウィンドウを開く

① ラベルを選択し、[書式設定]ボタンをクリックする



### ▼ラベルの対象の設定



② ラベルの対象にコントロールを指定します。

② [ラベルの対象]にコントロールを指定する

テキストボックス1

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

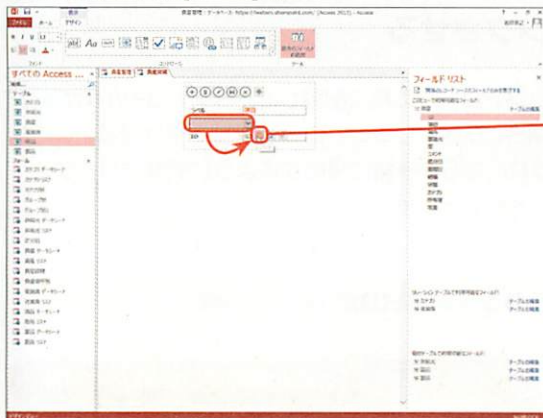
## Process

## コンボボックスを設定する



フォームのデザインビューでは、コンボボックスを配置するとウィザードが起動して、表示対象を対話的に設定することができました。しかし、ビューの場合はウィザードがありませんので、データウィンドウで表示対象となるデータを設定します。

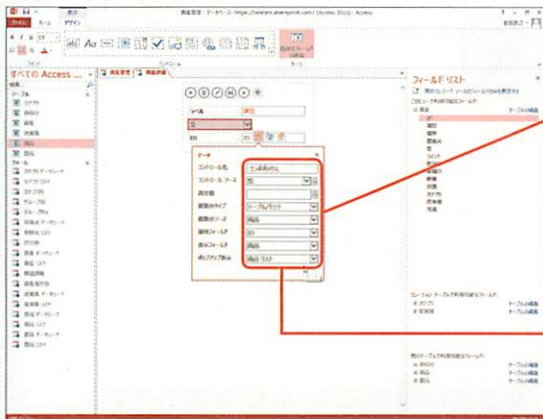
## ▼コンボボックスの[データ]ボタン



① コンボボックスのデータウィンドウを開きます。

① コンボボックスを選択し、[データ]ボタンをクリックする

## ▼[データ]ウィンドウ



② 各項目を設定します。

② 各項目を設定する



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順



## Memo コンボボックスのデータ設定

コンボボックスのデータウィンドウには、以下の設定項目があります。これらの項目を設定することで、コンボボックスのリストに表示されるデータを指定することができます。

Onepoint

多くの場合、連結フィールドにはID列を指定し、表示フィールドには名前や品番などの列を指定します。

項目	意味
値集合タイプ	リストのデータとして、テーブルやクエリの値を使うか、値を直接指定するかを選択します。
値集合ソース	値を直接指定する場合には、1行に1つずつリスト項目を入力します。テーブルやクエリの値を使う場合には、テーブルやクエリの名前を指定します。
連結フィールド	テーブルやクエリの値を使う場合、その中でどの列の値をテーブルに格納するかを指定します。
表示フィールド	テーブルやクエリの値を使う場合、その中でどの列の値をリスト表示するかを指定します。
ポップアップ表示	<新しいアイテムの追加>を選択したときに開くビューを指定します。

資料  
Appendix

索引  
Index



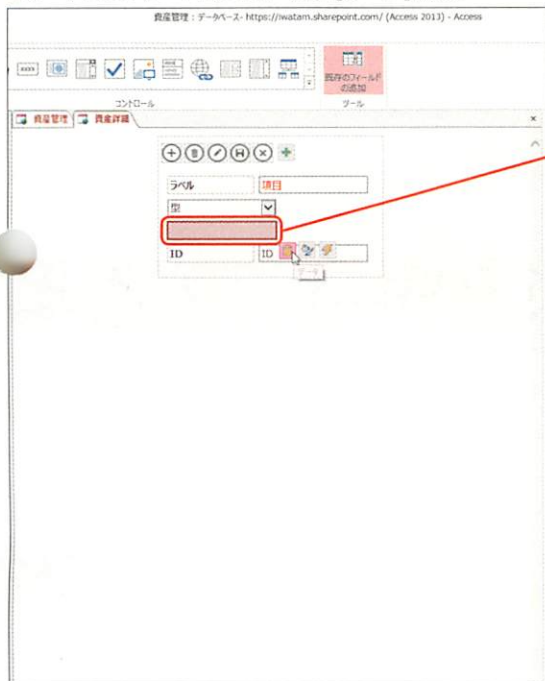
## Process

## オートコンプリートコントロールを設定する



オートコンプリートコントロールは、コンボボックスと同様に、リストの中の値を指定するはたらきをするコントロールです。設定方法もほぼコンボボックスと同じですが、一部違いがあります。

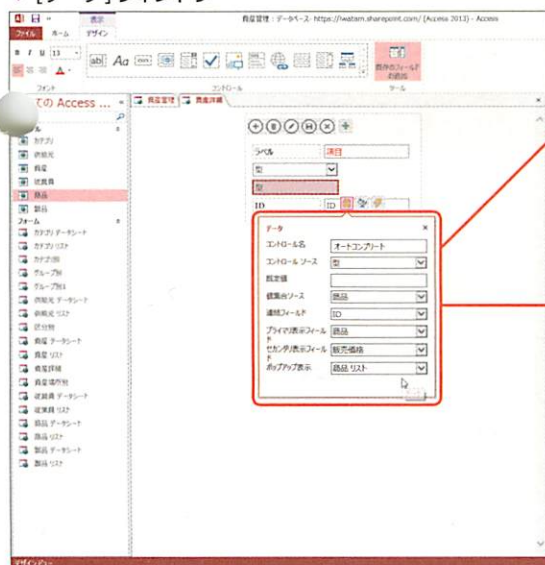
## ▼オートコンプリートコントロールの[データ]ボタン



① オートコンプリートコントロールのデータウィンドウを開きます。

① オートコンプリートコントロールを選択し、[データ]ボタンをクリックする

## ▼ [データ]ウィンドウ



② 各項目を設定します。

② 各項目を設定する

データ	
コントロール名	オートコンプリート
コントロール ソース	型
既定値	
値集合ソース	商品
連結フィールド	ID
プライマリ表示フィールド	商品
セカンダリ表示フィールド	販売価格
ポップアップ表示	商品 リスト

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## Process

## イメージコントロールに固定画像を設定する

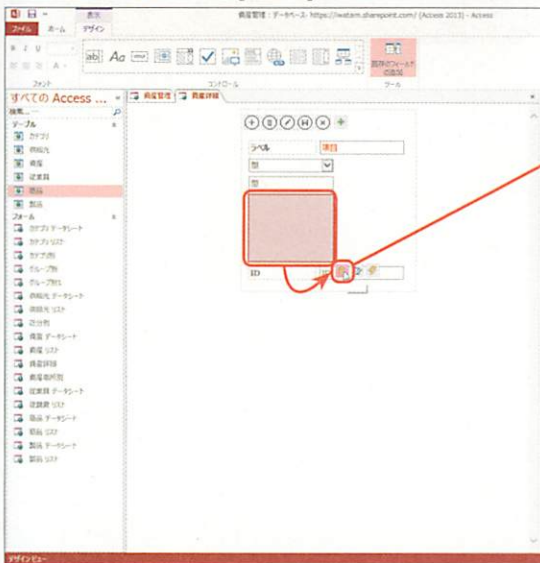


イメージコントロールは、画像を表示するコントロールです。テーブルにあるイメージ型の列の内容を表示することもできますし、画像をURLで指定して表示することもできます。

テーブルにある列の内容を表示する場合には、「11.5.3 コントロールを配置する」で説明した方法で設定ができますが、固定画像をURLで指定する場合には、いくつかの設定項目を自分で設定しなくてはなりません。

イメージコントロールの設定は、次のように行います。

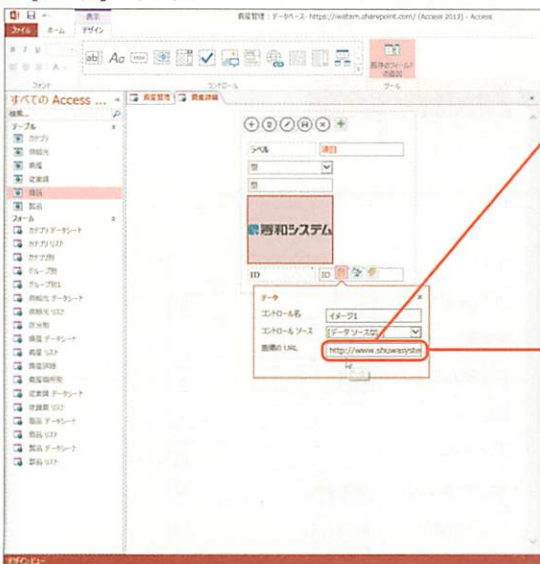
## ▼ イメージコントロールの[データ]ボタン



① イメージコントロールのデータウィンドウを開きません。

① イメージコントロールを選択し、[データ]ボタンをクリックする

## ▼ [データ]ウィンドウ



② 画像のURLを指定します。

② 画像のURLを設定する

<http://www.shuwasystem>

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

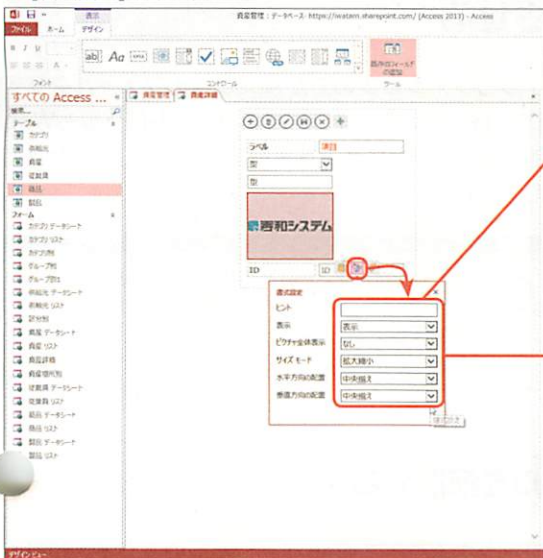
13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## ▼ [書式設定] ウィンドウ



③次に、書式設定ウィンドウに移って、各項目を設定します。

③ [書式設定] ボタンをクリックして、各項目を設定する



### Memo オートコンプリートコントロールのデータ設定

オートコンプリートコントロールのデータウィンドウには、以下の設定項目があります。

これらの項目を設定することで、オートコンプリートコントロールのリストに表示されるデータを指定することができます。

項目	意味
値集合ソース	リストに表示するデータの基となるテーブルやクエリの名前を指定します。
連結フィールド	値集合ソースとして指定したテーブルやクエリの中で、どの列の値をテーブルに格納するかを指定します。
プライマリ表示フィールド	値集合ソースとして指定したテーブルやクエリの中で、どの列の値をリスト表示および検索に使用するかを指定します。
セカンダリ表示フィールド	プライマリ表示フィールドとほぼ同様ですが、セカンダリ表示フィールドは検索には使用されず、プライマリ表示フィールドの下に表示されます。
ポップアップ表示	値が指定された後、その値をクリックしたときに開くビューを指定します。また、同じビューが<新しいアイテムの追加>を選択したときも使われます。

### Memo イメージコントロールの書式設定

イメージコントロールの書式設定ウィンドウには、以下の設定項目があります。

項目	意味
ピクチャ全体表示	余白がある場合、水平または垂直方向に画像を繰り返し表示します。
サイズモード	画像の大きさの調整方法を指定します。[固定]の場合は大きさの調整はしません。[拡大縮小]の場合は縦横比が同じになるように拡大縮小され、[引き伸ばし]の場合は縦横比に関係なくコントロールいっぱい引き伸ばされます。
水平方向の配置	余白がある場合、コントロール枠の中での水平方向の配置方法を指定します。
垂直方向の配置	余白がある場合、コントロール枠の中での垂直方向の配置方法を指定します。
ポップアップ表示	<新しいアイテムの追加>を選択したときに開くビューを指定します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.5.5 関連するデータを表示させる



関連するデータを表示する機能は、アプリケーションの方がAccessのフォームより多くの機能を持っています。Webに関連する機能としてハイパーリンクコントロールとWebブラウザコントロールがあります。別のレコードのビューを表示する機能として、サブビューと関連アイテムコントロールがあります。

### Onepoint



ビューの中のコントロールを使って別のビューを表示させるとき、ビューの中に表示される方のビューのレコードを子レコード、別のビューを設置している方のビューのレコードを親レコードと呼びます。

### Process

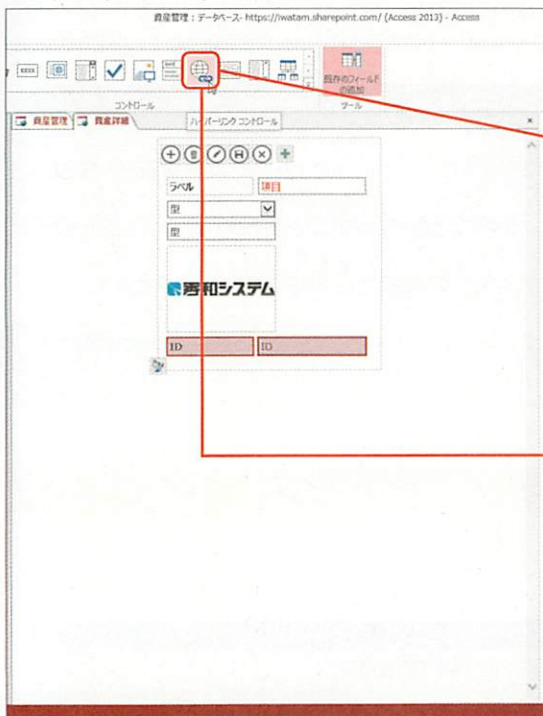
## ハイパーリンクコントロールを配置する



ハイパーリンクコントロールは、クリックすることでWebページや他のファイルが開くようになっているコントロールです。ハイパーリンク型のテーブル列をコントロールすることによって、レコードごとに違う値をURLに指定することができます。

ハイパーリンクコントロールを配置するには、次のようにします。

### ▼ハイパーリンクコントロール



① デザインタブのハイパーリンクコントロールをクリックして、コントロールを追加します。

① [ハイパーリンクコントロール]をクリックする



11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

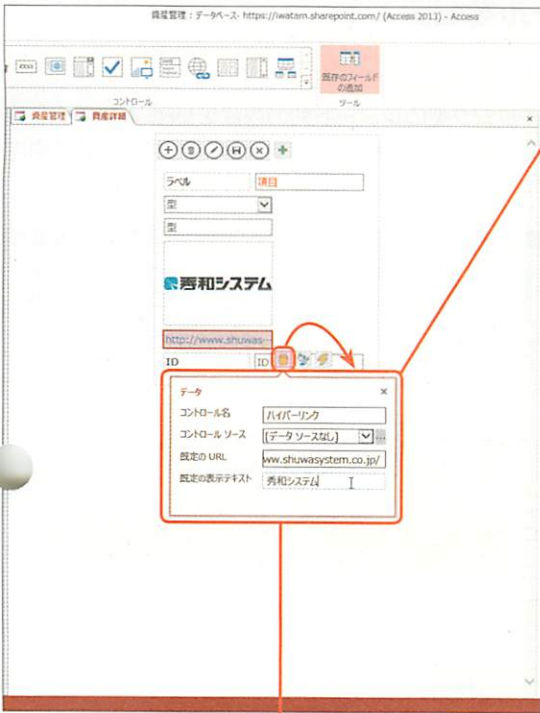
13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## ▼データウィンドウ



② データウィンドウで、表示すべきデータを設定します。

② [データ] ボタンをクリックし、各種設定をする

## Onepoint

👉 ハイパーリンクコントロールの使用方法については、「11.2.1 特殊な入力フィールド」を参照してください。

データ

コントロール名

コントロールソース  ▼ ...

既定の URL

既定の表示テキスト

### 👉 Onepoint ハイパーリンクコントロール

ハイパーリンクコントロールのデータウィンドウでは、以下の各項目を設定します。

項目	意味
コントロールソース	このコントロールで表示すべきデータが格納されている、テーブルまたはクエリの列を指定します。固定の URL を表示したい場合には、[データソースなし] を選択します。
既定の URL	レコードの新規作成時に、この値が入力されます。また、データソースなしの場合、この値がジャンプ先 URL として使用されます。
既定の表示テキスト	レコードの新規作成時に、この値が入力されます。また、データソースなしの場合、この値が表示されます。
ポップアップ表示	<新しいアイテムの追加> を選択したときに開くビューを指定します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

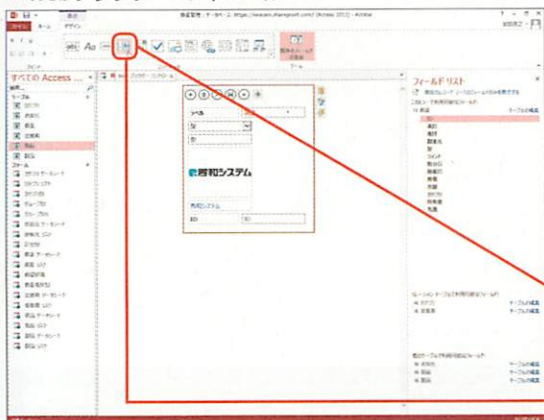
## Process

## Web ブラウザーコントロールを配置する



Web ブラウザーコントロールは、画面内に別の Web ページを表示することができるコントロールです。固定 URL またはハイパーリンク型のレコード列の内容を URL として使うことができます。アプリケーションはもともとブラウザ上で実行するため、簡単に別の Web ページを表示させることができます。

## ▼ Web ブラウザーコントロール

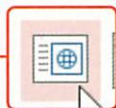


## Onepoint

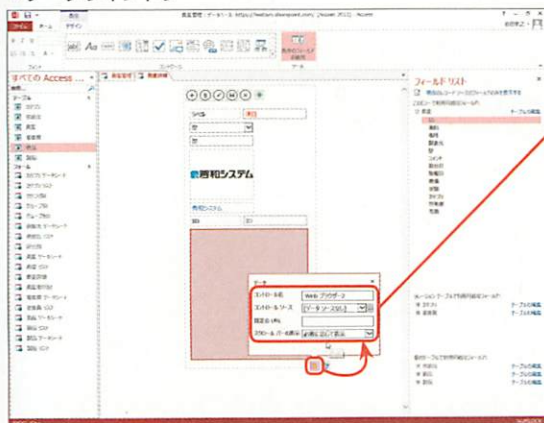
Web ブラウザーコントロールでは、フレームの機能を用いて別の Web ページを表示しています。この機能は、悪用するとセキュリティ上の問題を引き起こす可能性がありますので、注意して使用します。

① デザインタブの Web ブラウザーコントロールをクリックして、コントロールを追加します。

1 [Web ブラウザーコントロール]をクリックする



## ▼ データウィンドウ



② データウィンドウで、表示すべきデータを設定します。

2 [データ]ボタンをクリックし、各種設定をする



## Onepoint

## Web ブラウザーコントロール

Web ブラウザーコントロールのデータウィンドウでは、以下の各項目を設定します。

項目	意味
コントロールソース	このコントロールで表示すべきデータが格納されている、テーブルまたはクエリの列を指定します。固定の URL を表示したい場合には、[データソースなし]を選択します。
既定の URL	レコードの新規作成時に、この値が入力されます。また、データソースなしの場合、この値が表示先の URL として使用されます。
スクロールバーの表示	[必要に応じて表示]に設定すると、表示先の Web ページの画面が大きい場合に、自動的にスクロールバーが表示されます。



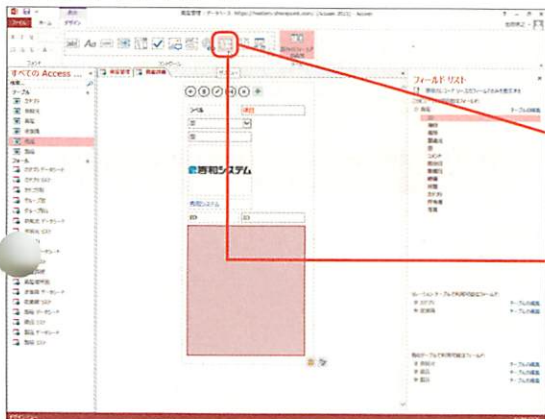
## Process

## サブビューを配置する



サブビューは、内部に別のビューを表示するコントロールです。親となるビューのレコードでの親リンクフィールドで指定した列の値が、サブビューの子リンクフィールドで指定した列の値と等しいもののみが表示されます。

## ▼サブビューコントロール

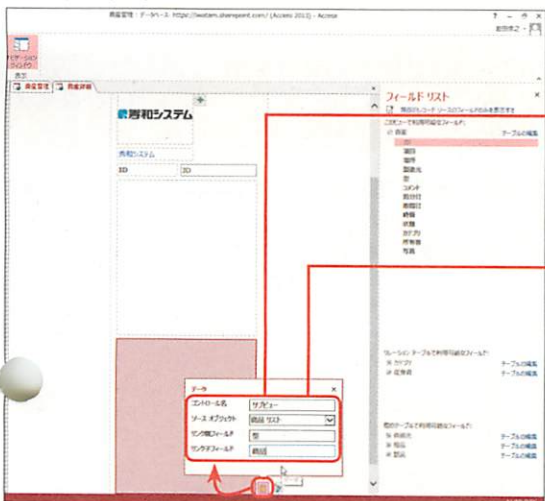


1 デザインタブのサブビューをクリックして、コントロールを追加します。

1 [サブビュー]をクリックする



## ▼データウィンドウ



2 データウィンドウで、表示すべきデータを設定します。

2 [データ]ボタンをクリックし、各種設定をする

コントロール名	サブビュー
ソースオブジェクト	商品リスト
リンク親フィールド	ID
リンク子フィールド	商品ID

## Onepoint



サブビューの使い方は、Accessのサブフォームとほぼ同じです。「10.5.2 サブフォームを配置する」を参照してください。

## Onepoint サブビュー

サブビューのデータウィンドウでは、以下の各項目を設定します。

項目	意味
ソースオブジェクト	このサブビュー内で表示する別のビューの名前を指定します。
リンク親フィールド	親レコードの列を指定します。
リンク子フィールド	子レコードの列を指定します。子となるテーブルのデータの中で、子フィールドの値が、親レコードのリンク親フィールドの値と等しいもののみが表示されます。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## Process

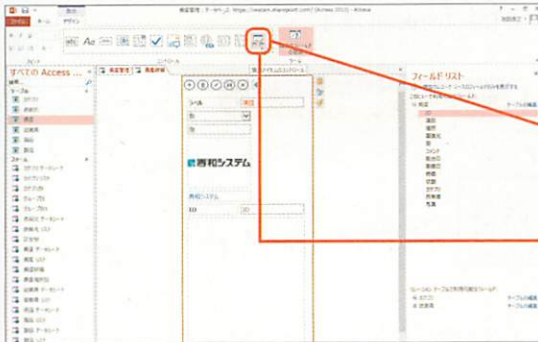
## 関連アイテムコントロールを配置する



関連アイテムコントロールは、ビューで表示しているレコードに関連するデータを、表形式で表示するコントロールです。

関連アイテムコントロールには、複数のタブを追加でき、それぞれのタブに違った関連のレコードをリスト表示させることができます。

## ▼関連アイテムのコントロール

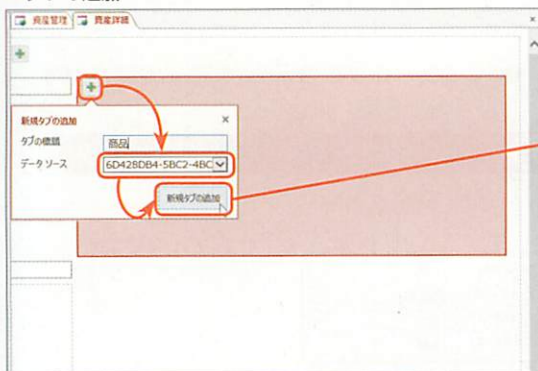


1 デザインタブの関連アイテムのコントロールをクリックして、コントロールを追加します。

1 [関連アイテムのコントロール]をクリックする



## ▼タブの追加



2 タブを追加します。

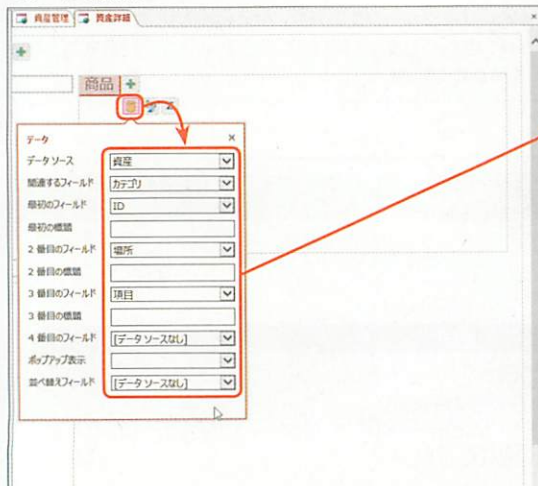
2 [追加]ボタンをクリックし、タブの表題とデータソースを指定して、[新規タブの追加]ボタンをクリックする

## Onepoint



Accessのバージョンによっては、日本語で入力すると新規タブの追加がクリックできないことがあるようです。この場合、タブの表題をいったん英文字で入力してみてください。

## ▼データの指定



3 表示させるデータを指定します。

3 [データ]ボタンをクリックして、データの設定をする

## Onepoint



データウィンドウの設定項目は、概要ビューの表と同じです。「11.5.2 概要ビューをカスタマイズする」の「Process レコードの表示方法を変更する」を参照してください。





# マクロを利用する

**Keyword** ● イベント ● 操作バー ● ボタン ● データマクロ

アプリケーションにおいても、Access データベースと同様の方法で、マクロを構築することができます。マクロは、操作バーやボタンに設定することもできますし、様々なタイミングで自動的に実行されるように設定することもできます。

ここでは、アプリケーションにおいてマクロの作成を開始する方法と、様々なイベントに対してマクロを設定する方法を説明します。

## Point マクロを利用する

ここでは、アプリケーションでマクロを使う方法を説明します。

① イベントにマクロを設定する

② マクロを作成する

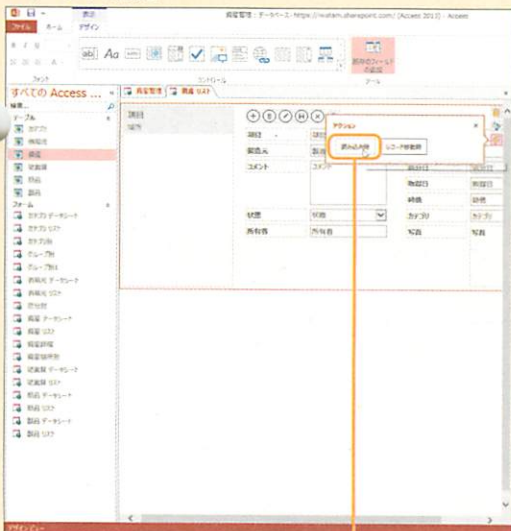
③ ボタンを追加する

④ データマクロのトレースをする

アプリケーションでは、イベントに対してマクロを設定したり、ボタンを追加したりすることで、マクロを実行させることができます。

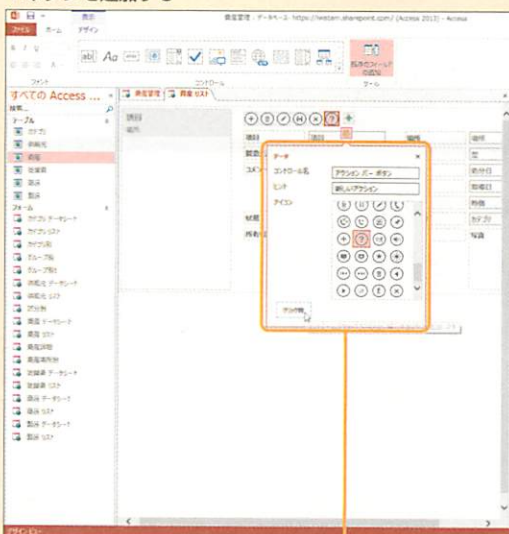
また、データマクロのトレース機能を使うと、データマクロの実行状況を確認することができます。

### ▼ イベントの設定



イベントに対してマクロを設定する

### ▼ ボタンを追加する



ボタンを追加する

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.6.1 イベントにマクロを設定する



アプリケーション実行中の特定のタイミングでマクロを実行するには、イベントにマクロを設定します。イベントを設定しようとすると、マクロ設計画面が開いて、そこでマクロを設計することができます。

### Onepoint



イベントに関しては、「10.2.2 イベントを設定する」も参考にしてください。

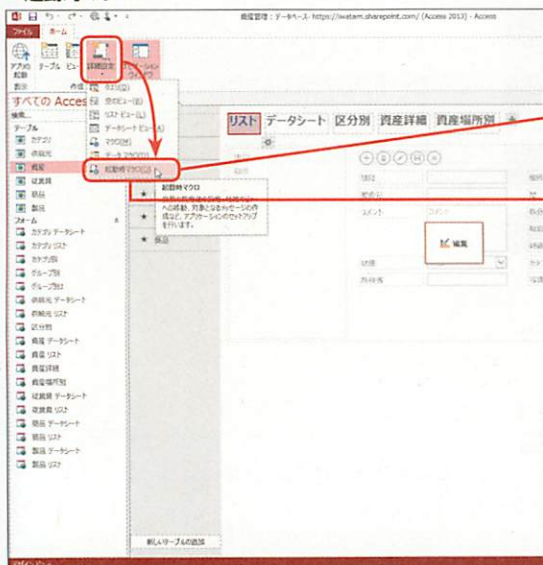
### Process

## 起動時イベントを設定する



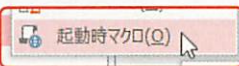
アプリケーションを起動したときに、マクロを実行させることができます。それには、起動時イベントにマクロを設定します。

### ▼起動時マクロ

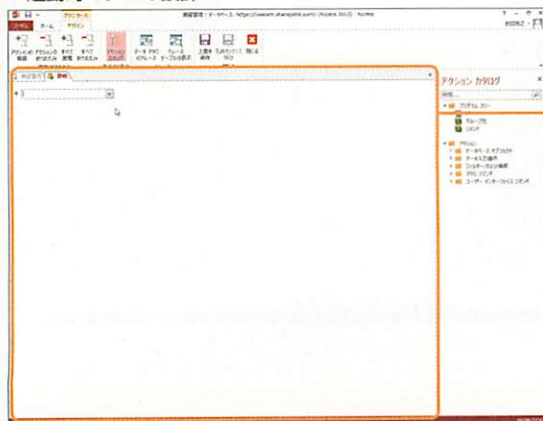


① 詳細設計の起動時マクロを選択します。

① [詳細設計]をクリックし、[起動時マクロ]を選択する



### ▼起動時マクロの設計



② マクロの設計画面が表示されます。

マクロの設計画面が表示された

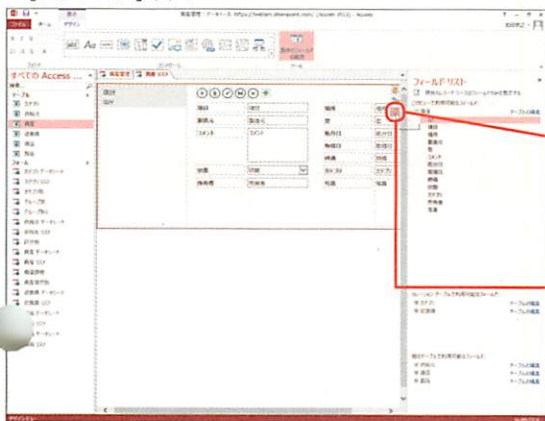


## Process

## ビューのイベントを設定する

ビューのイベントを設定するには、ビューの編集画面でアクションボタンを使います。

## ▼ [アクション] ボタン

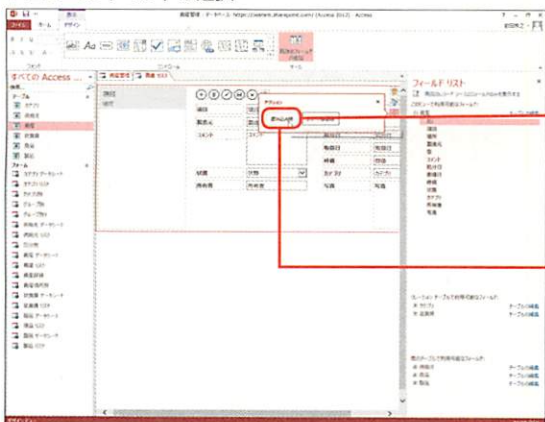


① ビューの編集画面で、ビュー全体を選択し、アクションボタンをクリックします。

① [アクション] ボタンをクリックする



## ▼ ビューのイベントの選択

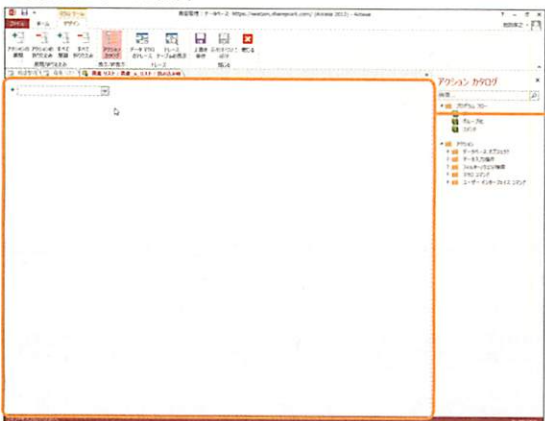


② イベントを選択します。

② イベントを選択する

読み込み時

## ▼ 起動時マクロの設計



③ マクロの設計画面が表示されます。

マクロの設計画面が表示された

## Onepoint

ビューのイベントは、それぞれ次のときに実行されます。

項目	意味
読み込み時	このビューが表示されたとき。
レコード移動時	ビューが表示しているレコードが切り替わったとき。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

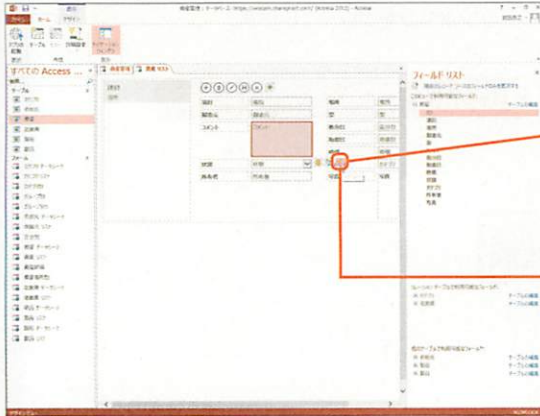
Process

## コントロールのイベントを設定する



コントロールのイベントを設定する方法も、ビューのイベント設定方法とほぼ同じです。ビューの編集画面でアクションボタンを使います。

### ▼[アクション] ボタン

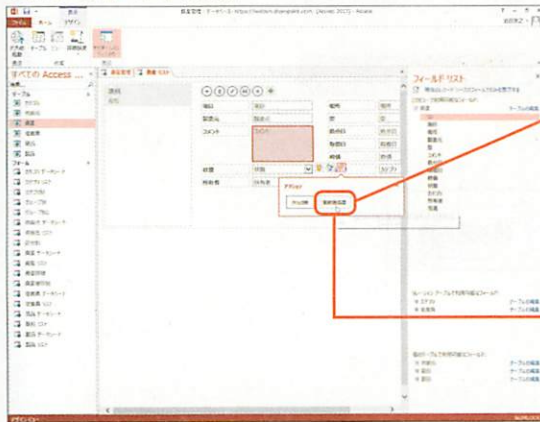


① ビューの編集画面で、コントロールを選択し、アクションボタンをクリックします。

① [アクション] ボタンをクリックする



### ▼ビューのイベントの選択

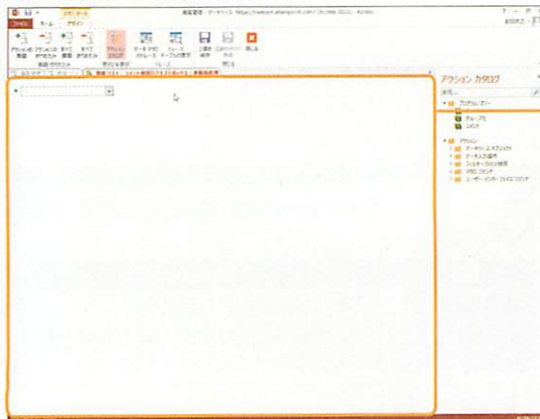


② イベントを選択します。

② イベントを選択する

更新後処理

### ▼起動時マクロの設計



③ マクロの設計画面が表示されます。

マクロの設計画面が表示された

Onepoint



コントロールのイベントは、それぞれ次のときに実行されます。

項目	意味
クリック時	このコントロールがクリックされたとき。
更新後処理	このコントロールが表示しているデータの更新後。



## 11.6.2 名前付きマクロを作成する



多くの処理で共通に使いたい部分を、名前付きマクロとして保存しておくことができます。保存した名前付きマクロは、イベント処理マクロの中で**マクロの実行アクション**を使って実行することができます。

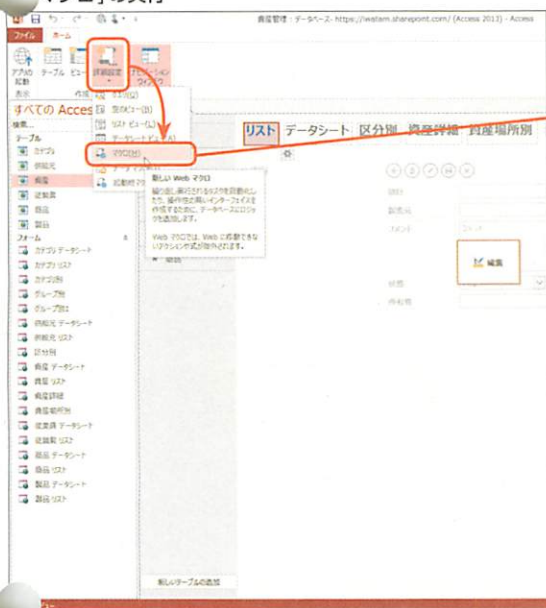
アプリケーションでは、Accessデータベースとは違って、名前付きマクロを単独で実行することや、イベントのプロパティとして指定することはできません。

### Process

## マクロを作成する

マクロを作成する手順は、「9.1 マクロを使う」で説明したAccessデータベースのマクロ作成手順とほぼ同じです。

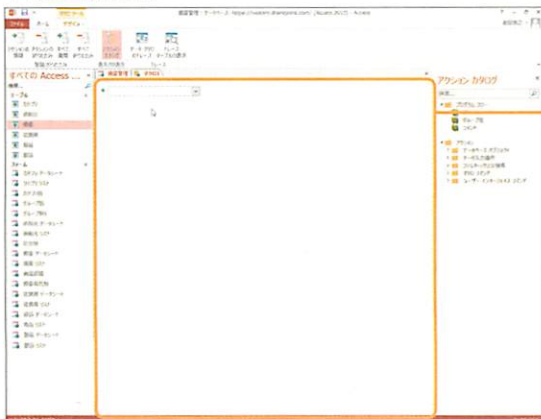
### マクロ]の実行



① ホームタブで、詳細設定のマクロを実行します。

① [詳細設定]をクリックし、[マクロ]を選択する

### ▼マクロ設計画面



② マクロ設計画面が表示されました。

マクロ設計画面が表示された

### Onepoint



マクロの名前は、通常のマクロ設計時と同様、マクロを開いて保存するときに入力します。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

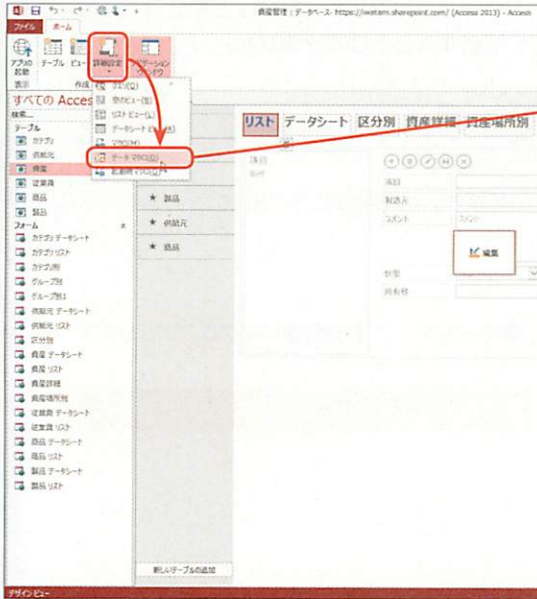
索引  
Index

Process

## データマクロを作成する

データマクロは、テーブルのデータを操作するためのマクロです。こちらやり方はマクロの作成とほぼ同じです。

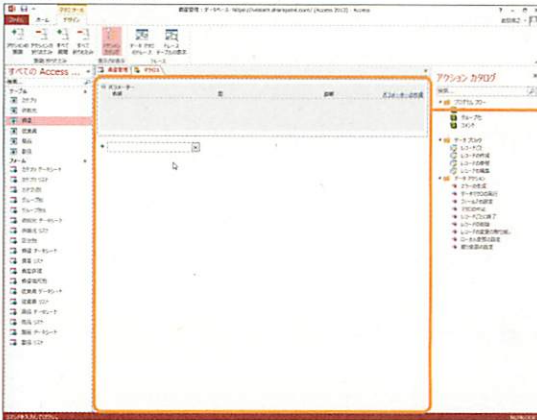
### ▼ [データマクロ] の実行



① ホームタブで、詳細設定のデータマクロを実行します。

① [詳細設定] をクリックし、[データマクロ] を選択する

### ▼ マクロ設計画面



② マクロ設計画面が表示されました。

マクロ設計画面が表示された

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



## 11.6.3. ボタンを追加する



イベントは特定のタイミングで自動的に処理を実行するものですが、ユーザーが特定のマクロを自分から実行させたいという場合には、ビューの中にボタンを設置します。

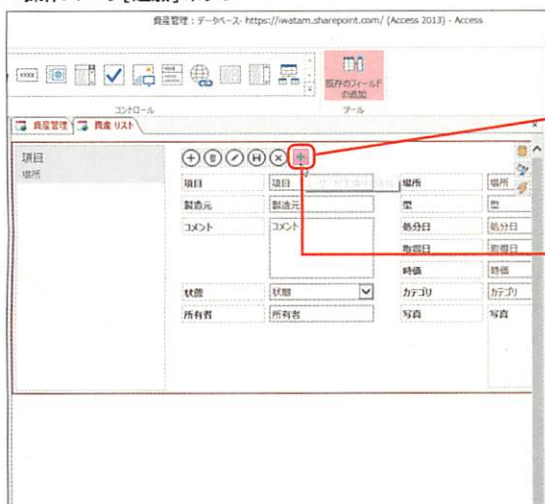
といっても、マクロが実行される仕組みは同じで、ボタンのクリック時イベントにマクロを設定します。ボタンが「クリックされたとき」にマクロが自動的に実行されるよう設定する、というわけです。

### Process 操作バーのボタンを追加する

操作バーは、ビューの上端にある、追加や削除といったボタンが並んでいる領域です。ここに、マクロを実行させるためのボタンを追加することができます。

ビューの設計画面で、次のように操作します。

#### ▼操作バーの[追加]ボタン

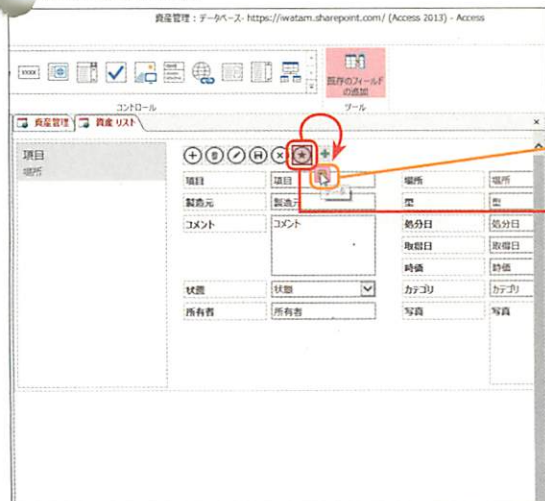


① 操作バー右端の追加ボタンをクリックします。

① [追加]ボタンをクリックする



#### ボタンが追加された



② ボタンが追加されますので、データウィンドウを開きます。

ボタンが追加された

② [データ]ボタンをクリックする

11  
アプリを  
作成する

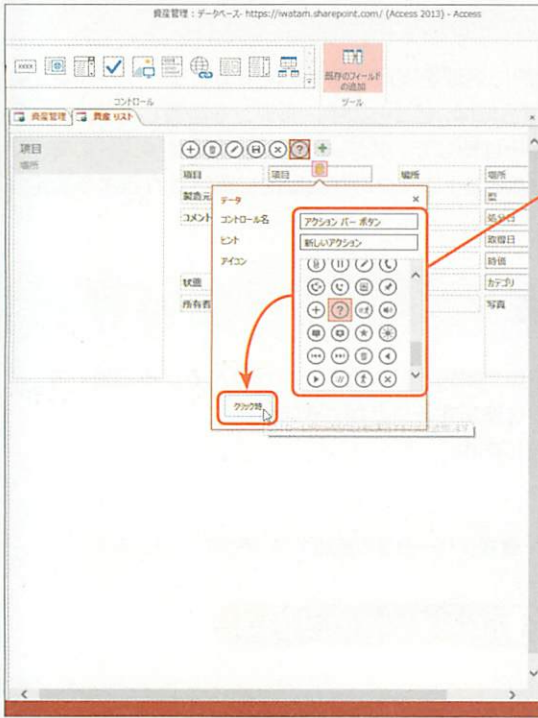
12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

▼ボタンのデータウィンドウ

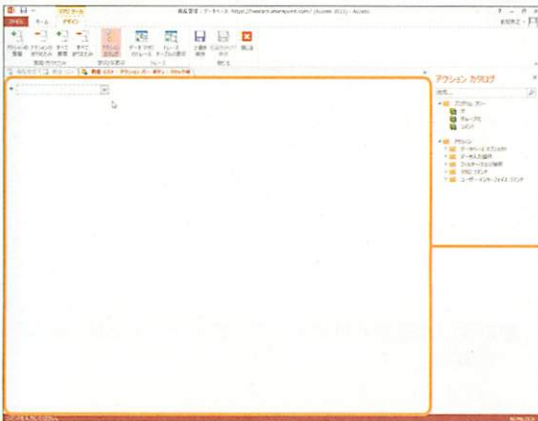


③ ヒント、ボタンのアイコンを指定して、クリック時イベントを設定します。

④ マクロ設計画面が表示されました。

③ 各種項目を指定して、[クリック時] ボタンをクリックする

▼マクロ設計画面



マクロ設計画面が表示された

Process

ビューのボタンを追加する



操作バーではなく、ビューの中にボタンを配置することもできます。例えば、レコードの特定の列に関するマクロ処理を実行させたい場合などは、関連する列の入力コントロールの脇にボタンを設置するのがいいでしょう。

この操作も、同じくビューの設計画面で行います。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

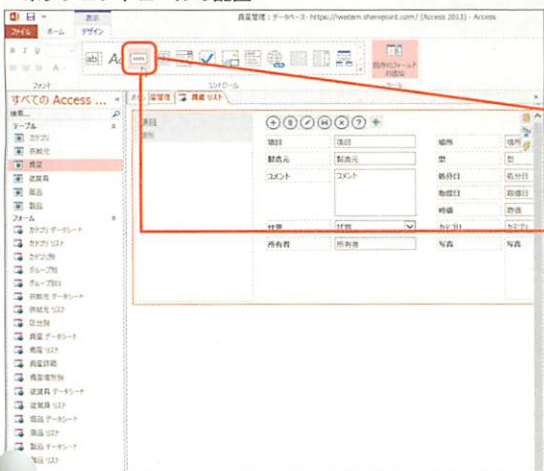
13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



▼ ボタンコントロールの配置

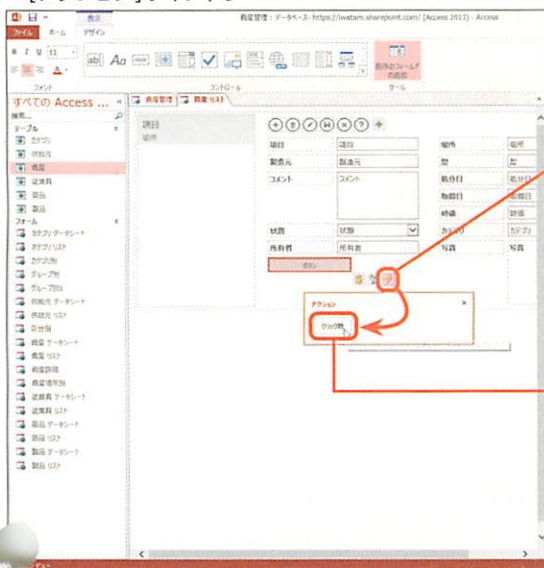


1 ボタンコントロールを配置します。

1 [ボタン]コントロールをクリックする



▼ [アクション]ウィンドウ

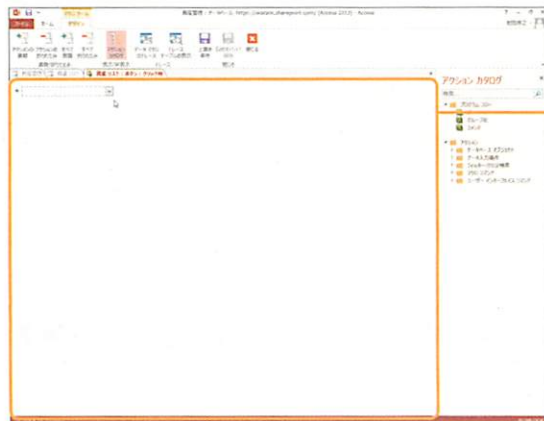


2 アクションウィンドウを開き、クリック時イベントを設定します。

2 [アクション]ボタンをクリックし、[クリック時]ボタンをクリックする



▼ マクロ設計画面



3 マクロ設計画面が表示されました。

マクロ設計画面が表示された

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 11.6.4 データマクロのトレースをする



データマクロは、テーブルのレコード追加時などに自動的に実行するよう設定しますが、自動的に実行されてしまうため、何か処理に問題が起こっても気づきにくいという難点があります。

そこで、アプリケーションでは、データマクロにトレースの機能が追加されています。データマクロのトレースを有効にすると、データマクロの実行状況が記録されます。

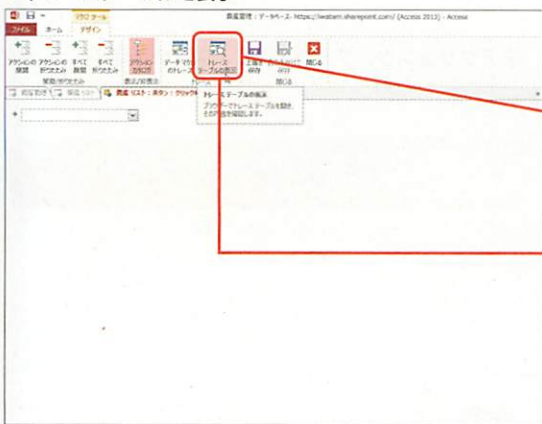
通常、トレース機能はオンになっています。

### Process

### トレース結果を表示させる

トレース結果を表示させるには、マクロの設計画面で「トレーステーブルを表示」を実行します。

#### ▼トレーステーブルを表示

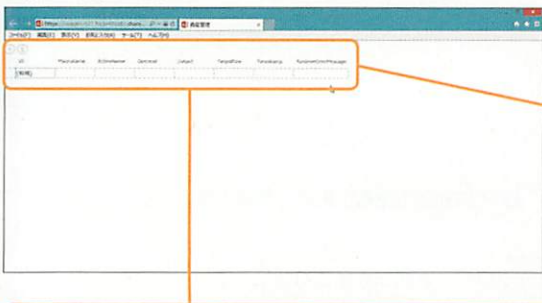


① トレーステーブルを表示を実行します。

① 「トレーステーブルを表示」をクリックする



#### ▼トレーステーブル



② トレーステーブルが表示されます。

トレーステーブルが表示された

ID	MacroName	ActionName	Operand	Output	TargetRow	Timestamp	RuntimeErrorMessage
(新規)							

### Onepoint



トレーステーブルは、Web ブラウザー上で開きます。

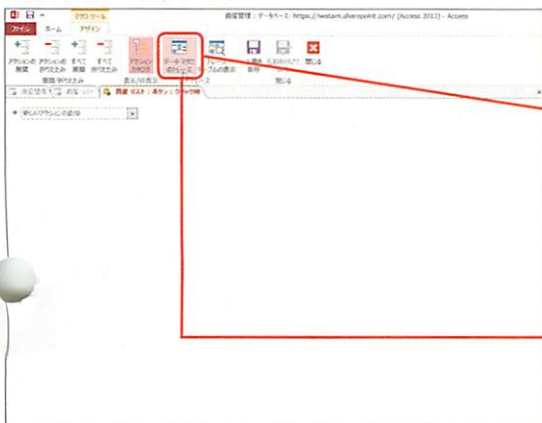


## Process

## トレースを無効にする

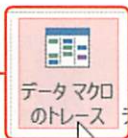
トレースを無効にするには、データマクロのトレースの選択を外します。この操作もマクロ設計画面で行います。

## ▼データマクロのトレース

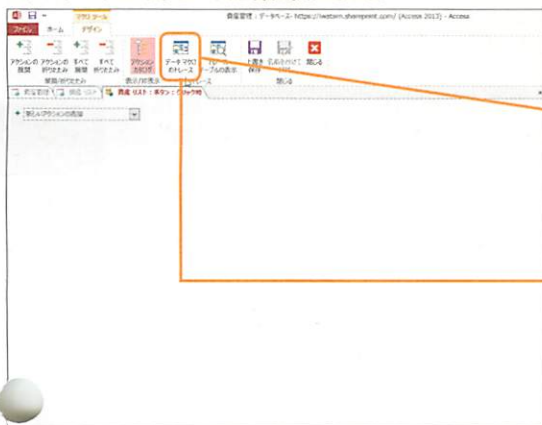


① データマクロのトレースの選択を外します。

① [データマクロのトレース]ボタンをクリックする



## ▼データマクロのトレースが非選択になった



② データマクロのトレースの選択が外れました。

[データマクロのトレース]ボタンの色が消えた



## Memo Office 365を試用する

Office 365には試用期間がありますので、一定期間無料でアカウントを作成することができます。インターネット上でただちにアカウントが発行され、自分専用のサーバーが用意されますので、気軽にアカウントを作成してみるとよいでしょう。Office 365には、Officeの機能以外にも様々な機能があります。試してみることで、いろいろな発見があるでしょう。

組織で使うことを検討していて、何らかの事情でクラウドが使えないということでしたら、自社のサーバー機にSharePointサーバーをインストールするという方法もあります。SharePointサーバーも無料試用期間がありますので、一度試してみるとよいでしょう。

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

Chapter 11  
質問と回答

## Q &amp; A



question

クラウドとは何ですか？

データをインターネット上のサーバーに置いて、インターネット経由でサービスという形で利用することをいいます。



answer

明確な定義がなく、人によって意味が違っているため、答えるのが難しい質問です。しかし、だいたいのところをお答えします。

インターネットがまだ普及していなかった頃は、各自の持っているデータは、自分のPCの中のハードディスクに保存していました。自分の持っているデータを他人に渡す際には、データをいったんフロッピーディスクなどに保存して、それを渡していました。

ネットワークが普及し、すべてのPCがネットワークにつながるようになると、会社などの組織は専用のサーバー機を導入し、そこにデータを保管できるようにしました。サーバー機の共有フォルダーにファイルを入れるだけで、そのファイルに他のPCから容易にアクセスできるようになりました。

これをもう一歩進めて、サーバーを組織専用のものではなく、インターネット上のサービスに置き換えたのが、クラウドと呼ばれるものです。サービスを提供している会社(例えばマイクロソフト社)が、それぞれの組織に対して、組織専用のサーバーを用意します。これによって、インターネットにつながってさえいれば、どのマシンからもサーバーにアクセスできるようになります。

クラウドのもう1つの特徴は、処理がサーバー上で実行されるということです。Accessデータベースの場合、テーブルの検索を実行すると、Accessを実行しているPC自体が、ファイルを読み出して検索を実行します。しかし、アプリケーションではデータがサーバーにあり、ブラウザ経由で検索を実行します。検索の作業自体はサーバーが行い、ブラウザはその結果を表示するだけの役割をします。ユーザー側は結果を表示するためのみ、端末の処理性能はあまり必要なくなり、スマートフォンなどの小型端末でも同じように使用することができるようになります。



question

条件で絞り込みを行ったり、集計したりしたい場合はどうすればいいですか？

クエリを作成して、クエリの結果をビューで表示させてください。



answer

アプリケーションは、Accessデータベースのように自由にフィルターを設定したり集計したりすることができません。ユーザーが実行しそうな検索条件をあらかじめ予想して、クエリとして作成しておかなくてはなりません。テーブルのビューを追加して、ビューのレコードソースにクエリを選択します。

また、概要ビューを使うと、グループ化と集計の機能が使えます。集計が必要な場合の多くは、概要ビュー(「11.5.2 概要ビューをカスタマイズする」参照)で事足りるでしょう。しかし、Accessのレポートが得意とするような、複数段のグループ化を含んだ複雑な表は、アプリケーションでは表示できません。

11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index